

平成27年度
教育に関する事務の管理および執行の状況
の点検および評価等の報告書

平成28年12月

米 原 市 教 育 委 員 会

目 次

1. 点検および評価制度の概要	
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 対象事業の考え方	1
(4) 評価の方法	1
(5) 学識経験者の知見の活用	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員	3
(2) 教育委員会の活動状況	3
(ア) 教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ) 教育委員会委員協議会の設置および開催状況	3
(ウ) 総合教育会議	4
(エ) その他の活動状況	4
(オ) 委員の就任状況	4
3. 学識経験者による意見	
(1) 趣旨	5
(2) 学識経験者	5
(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4) 学識経験者による意見	7
4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等	
(1) 平成 27 年度重点目標の達成状況	10
(2) 施策の体系と事務事業一覧	14
(3) 点検および評価等の結果	16
対象事業の評価一覧	17
各事業の点検および評価等	
教育総務課所管事業	19
学校給食課所管事業	26
学校教育課所管事業	30
生涯学習課所管事業	38
歴史文化財保護課所管事業	51
図書館所管事業	55

保育幼稚園課所管事業	57
子育て支援課所管事業	58
こども家庭課所管事業	59
(4) 学校評価	60
幼稚園外部評価	60
小・中学校外部評価	67
(5) 米原市教育振興基本計画（目標指標）	75

1. 点検および評価制度の概要

(1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」のひとつとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価（以下「点検および評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

(3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、平成 27 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含むすべての事務が対象となります。

ただし、現在米原市においては、「行政評価システム」を構築中であり、最終的には当該システムにリンクする形で点検および評価を行っていく予定ではありますが、その間は教育委員会独自の点検および評価を行うこととします。

事業のまとめ方については、「米原市総合計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

(4) 評価の方法

評価の方法については、個々の事務事業について評価の目安となる成果指標が定まっていますが、評価について地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、平成 27 年度における主要施策の成果説明書（以下

「主要施策の成果説明書」という。)の主要な施策の実績の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。また、平成23年3月に策定した「米原市教育振興基本計画」における目標指標の現状値も把握しています。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
委員長	稲 村 邦 夫	H25. 3. 28～H29. 3. 27
委員長職務代理者	河 居 郁 夫	H26. 3. 25～H30. 3. 24
委 員	本 庄 通 子	H27. 3. 25～H31. 3. 24
委 員	小 路 芙美恵	H24. 3. 25～H28. 3. 24
委 員	近 藤 由 加 里	H28. 3. 25～H32. 3. 24
委 員（教育長）	山 本 太 一	H25. 8. 14～H29. 8. 13

(2) 教育委員会の活動状況

(ア) 教育委員会議の開催および議決状況

月 日	定例 ・臨時 の別	議 決 事 項							協議 事項	報告 事項 ほか
		条例案	規則	訓令 要綱	委員等 任命・ 委嘱等	予算案	後援等 名義使 用	その他		
H27. 4. 21	定例		3	1			2			3
H27. 5. 19	定例	1			2	2	3			2
H27. 6. 23	定例		5	1	4		8			3
H27. 7. 23	定例		1				2	1		3
H27. 8. 18	定例	1		1	3	2	1			2
H27. 9. 25	定例						2			7
H27. 10. 22	定例		1	1	1		2			2
H27. 11. 18	定例	1			1	1	2	6		1
H27. 12. 18	定例		1				2		1	2
H28. 1. 21	定例		1	1	1		1			3
H28. 2. 10	定例	2	1	1		2	1	2		3
H28. 3. 11	臨時							1		
H28. 3. 23	定例		6	2	1	2	6			5
H28. 3. 25	臨時							1		1
合 計	定例 12回 臨時 2回	5	19	8	13	9	32	11	1	37

(イ) 教育委員会委員協議会の設置および開催状況

平成 27 年度に米原市教育委員会の所管事項の協議調整等を行う協議会を 1 回開催しました。

(ウ) 総合教育会議

平成 27 年 4 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成 27 年度から市長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を市長が設置するとともに、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することが義務づけられました。市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、本市教育の課題および目指す姿を共有しながら、連携して効果的な教育行政を推進するため総合教育会議を 4 回開催しました。

- 1 回：5 月 18 日（月）総合教育会議の概要・規則、教育振興基本計画の概要
- 2 回：8 月 7 日（金）教育大綱の位置付け、教育大綱内容
- 3 回：11 月 25 日（水）教育大綱（骨子案）
- 4 回：2 月 19 日（金）教育大綱（案）

(エ) その他の活動状況

- 学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）
- 各校入学式および各園入園式
- 各校園運動会および体育祭
- 各校卒業式および各園卒園式
- 成人式等各種行事
- おうみ認定こども園竣工式
- 研修等
 - ・ 滋賀県都市教育委員会連絡協議会
（理事会・総会・研修会・意見交流会・教育長会議）
 - ・ 滋賀県市町教育委員会研究協議会
 - ・ 近畿都市教育長協議会（総会・研究協議会）
 - ・ 全国都市教育長協議会（理事会・総会・研究会）
 - ・ 滋賀県へき地教育振興促進期成会

(オ) 委員の就任状況

- ・ 米原市青少年育成市民会議
- ・ 米原市人権尊重のまちづくり審議会委員

3. 学識経験者による意見

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

(2) 学識経験者

- 大橋松行(おおはし まつゆき)氏 滋賀県立大学教授、市行財政改革市民会議副座長
- 宮永房一(みやなが ふさいち)氏 元市内小学校長、元認定こども園長、主任児童委員

(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日 時：平成28年10月6日(木) 15時30分から17時00分まで

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、宮永房一氏
(教育委員) 稲村邦夫、河居郁夫、本庄通子
(教育長) 山本太一、(教育部長) 田中博之
(事務局) 教育総務課：仲谷、澤

◆意見交換での主な意見

(全般)

- ・内部評価ではあるが、尽力いただいていることが分かる。
- ・すべての事業がC評価以上で、A評価もあり頑張っていると思う。事業によってはC評価以上の評価をしても良いと思うものもある。
- ・評価ランクのB評価とC評価の違いが少し分かりにくい。
- ・多様な主体の連携、民間委託、公民連携の推進などから、今後は協働の視点で取組を進める必要がある。

(効率的な運営)

- ・教育総務課の通学支援の整理ができて課題解決が図られた。
- ・学校施設の整備は進んでいるが、今後人口減少の中、公共施設の維持は課題で、学校を残していくのであれば複合化を考える必要がある。
- ・ルッチプラザの自主事業が共催事業の拡充で効果的な運営ができている。

(特色ある取組)

- ・学校給食では、アレルギー対応など安全面もしっかりされていて、地産地消も進んでいる。
- ・食物アレルギー対応等きめ細やかな対応ができているが、就学前の食育のあり方によっては食わず嫌いの子どももいるのではないか。
- ・近隣市の状況を見ながら、給食費の無料化等の検討も必要。
- ・学校支援地域本部事業に取り組んでおられるが、学校評議員制度が機能しているかが課題で、将来的にはコミュニティスクールだと思う。
- ・学校支援地域本部事業は全市に広げる予定。コミュニティスクールをめざすか、学校長が思いをもって運営できるような形がよい。
- ・学校評議員については、もう少し機能するように工夫が必要ではないか。
- ・ルッチ大学は見直しがされたが、実際に地域で活躍できているか。学校でもそういった人を活用してはどうか。

(教育環境の充実)

- ・小中学校の空調整備などの整備も進み、機器なども整備できたが、それを上手く活用できるかが課題である。
- ・教員が子どもに向き合って対応できているかどうかが大切。教育に関する研修などにもっとお金を使ってほしい。
- ・空調設備などにより学校の環境も良くなったので、夏休みを短くしても良いのではないか。

(スポーツ振興)

- ・財団を利用されるなど公民連携を進める必要がある。
- ・スポーツクラブの充実が必要。スポーツの拠点整備が進められているが、地域の体育振興会の活性化が必要だと思う。

(4) 学識経験者による意見

◆滋賀県立大学教授 大橋松行氏 による意見

米原市教育委員会の「平成 27 年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等」について、以下に報告いたします。

米原市では、平成 27 年度から第 3 次行財政改革大綱および同実施計画に取り組まれています。行財政改革は、持続可能な行財政基盤の確立を推進するとともに、効率的で効果的な行政経営および地域経営を実行しようとするものです。公民連携の推進は教育分野においても適用されるものであり、協働による事業推進、民間への業務委託などを積極的に推進する必要があります。

このような観点から、教育に関する事務の管理および執行の状況について、以下に具体的に意見を提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事務評価において A 評価が 3、B 評価が 7、C 評価は 25 で、全体に高い評価となっています。特に、教育総務課と生涯学習課では顕著な成果を上げておられます。この点については高く評価できます。

次に、各主管課の事務事業についてみていきます。第 1 に、教育総務課ですが、「小学校施設整備事業」および「中学校施設整備事業」では、空調設備整備を始め、各種整備事業について国の交付金を活用して実施したこと、また、長寿命化計画策定を進めたことは高く評価できます。ただ、今後人口減少が進展していく中で、公共施設の維持・管理は大きな課題となります。学校施設は地域の核となるものですが、将来的には複合施設として活用することを考えてみることも必要になると思います。

第 2 に、学校給食課です。「学校給食総務管理事業」では、食物アレルギーに対して適切な対応がなされている点は評価できますが、給食費の未納・滞納については依然として課題を残しているように思います。「学校給食事業」では、地場産物活用率は昨年度を若干下回っているものの、県平均を大幅に上回っていますので、引き続き地産地消メニューの開発・推進に尽力いただくとともに、安心安全な給食を提供していただきたいと思います。

第 3 に、学校教育課です。「小学校管理運営事業」および「中学校管理運営事業」では、学校評議員制度によって、学校が家庭や地域と連携協力して、地域に根ざした学校運営を行っていることは評価できますが、将来的には、学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高めるために、米原市に合った形で、学校運営協議会制度の導入を考えてもよいのではないかと思います。また、少人数学級編成について、市単独で 35 人学級が導入されており、きめ細かい指導がされている点は評価できます。

第 4 に、生涯学習課です。重要施策として位置づけられている「家庭の教育力向上事業」では、家庭教育フォーラムを実施することで子育て世代の市民に向けて啓発を行うことができたことは評価できます。地域全体の教育力の向上につなげるためにも、この事業を継

続して行っていただきたいと思います。「地域人材育成事業」では、ルッチ大学のカリキュラムの見直しが行われ、より充実した内容となったこと、また、卒業生を中心とした市民主導型の運営体制が確立できたことは評価できます。「文化芸術振興施設管理運営事業」では、ルッチプラザの自主事業で共催事業を拡充したことで、市予算の負担額を抑えることができたことは高く評価できます。ただ、「生涯スポーツ推進体制整備事業」で補助金を交付した5つのスポーツ団体のうち3団体で参加者数が前年度を下回っていますので、今後の運営のあり方については改善の余地があるように思います。

最後に、歴史文化財保護課です。全国山城サミットの開催や「流星」の打ち上げなど、米原市合併10周年にふさわしい事業が開催されたことは評価できますが、米原市には自然、歴史、文化など全国に誇れる地域資源が豊富にありますので、これまで以上に市内はもちろん、全国に向けて積極的に情報発信していくことが求められます。

以上、各主管課の事務事業について意見を付してきました。平成27年度の米原市教育委員会は、多少の課題はあるものの、ほぼ十全に機能していると判断いたします。事業によっては、大きな成果を上げているものもあり、また、多くの事業で適切かつ前向きに活動を展開していることは、評価できます。平成27年度から教育委員会制度が変わりました。今後とも、教育に関わる施策や事業を幅広く円滑に推進するため、市長部局の関係機関との相互連携による積極的な事業展開を進めることが求められます。教育委員会におかれては、より一層の会議の透明性を図り、開かれた教育行政を推進するとともに、地域住民の民意を十分に反映していただくような取組を進められることを期待します。

◆元市内小学校長 宮永房一氏 による意見

教育委員会による、その権限に属する事務の管理および執行の状況について自己点検および評価を受けて懇話会が開催され、昨年に引き続きその懇話会に参加いたしましたので、今回の点検・評価に関する意見を述べたいと思います。教育行政の経験は乏しく、教育現場の経験からの意見が中心となることをお許し願いたいと思います。

まず、各事務事業の評価が全てC以上であることは教育行政が良好に遂行されたと認識いたします敬意を表したいと思います。さらに、昨年度と比較して、事務事業の削減や追加等で変更はあったものの評価CやBから評価BやAへとよくなっている事業が目立ち高く評価できます。

一方、評価ランクについては、ランクごとに微妙な違いは認識できるものの状況の違いを見極めることが難しいこともあるように思います。評価基準の設定のあり方が今後の課題であると思います。

以下、各事業についてコメントをしたいと思います。

(教育総務課に関わること)

- ・事務局教育振興事業において、学校支援バスやスクールバスを活用した校外学習等は教育活動の充実に大きく寄与していると思います。本年度の実績176回は学校園の希望や期待に応えられたのかどうかを検証する必要があると思います。
- ・小学校管理運営事業の中で、管理備品の購入額が前年度の三分の一程度ですが、それは、

学校からの要求が少なかったのか、管理備品の整備方針の変化等であったのかが気になります。

・小学校施設整備事業および中学校施設整備事業において、子どもたちの安全安心で快適な学校生活のために補修・改修していることは高く評価します。一方、“長寿命化計画”は、総合計画等の将来の学校のあり方を見据えた方針のもとで行うことが大切だと思います。

（学校給食課に関わること）

・学校給食総務管理事業において、食物アレルギー対応が必要な子どもたちが年々増加の傾向ですが、個別に適切な対応がとられていて素晴らしいと思います。一方、食に関しては、就学前の食環境（食べず嫌いにならないように）が大きな影響を与えていると思います。教育現場の状況から福祉関係等とのさらなる連携も必要だと思います。

また、地場産物の学校給食への導入も積極的に取り組まれていて県平均よりも高い活用率であることが評価できると思います。他にも、安全安心を第一にし、特色ある給食や保護者への食育指導等が実施されています。この状況での評価はCにとどまらず、もっと自信をもっていただいてよいと思います。

（学校教育課に関わること）

・教育センター事業において、講座参加教職員の満足度が高いことは、教職員の資質が向上し、教育活動の充実につながると思います。

・小学校教育振興事業で、学校長に一定の予算執行権限を設けた予算制度の反応はよいと聞きました。このことが特色ある学校経営につながるものと期待できます。

（生涯学習課に関わること）

・社会教育総務管理事業における家庭教育フォーラムで、80人の参加者があり参加者の満足度が高かったことは評価できます。

・人権教育の推進を重視する方針を受けて、人権教育推進にかかる新規の事業を企画されることを期待します。

（子育て支援課に関わること）

・子ども会育成連合会の“まいばら子ども王国”に多くの参加者があり盛会であったことは素晴らしいと思いました。今回は記念事業でありましたが、今後もこの取組の趣旨が生かされる事業が展開されるとよいと思います。

以上、懇話会を通じて米原市の教育行政に関わってくださる方々の努力や苦勞、そして喜びの一部を感じとることができたように思います。現在のめまぐるしく変化する社会は子どもたちの育ちに必ずしもよい影響ばかりを与えるものとは思えません。今後も米原市の子どもたちの未来を見据えた教育行政が推進されることを願っています。

4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等

(1) 平成 27 年度重点目標の達成状況

米原市では、市の長期計画に沿った政策や市長の施政方針、さらには庁内部長会議で合意された重点事項等を踏まえ、部局別重点目標を設定し、目標達成に向けた取組を進め、成果を評価しています。

平成 27 年度終了時点における教育部の重点目標の達成状況は、以下のとおりです。

【達成度】

達 成 度		項 目 数
達成度 5	目標を上回る成果	
達成度 4	目標をやや上回る成果	8
達成度 3	目標どおりの成果	7
達成度 2	目標をやや下回る成果	
達成度 1	目標を下回る成果	

計 15 項目

平成27年度教育部重点目標調査

部長	田中 博之	次長	宮崎 幹也
----	-------	----	-------

【仕事に対する姿勢】

教育部では、子どもたちが健やかに学ぶことができる学習環境づくりに努めるとともに、子どもから高齢者までお互いが自分とふるさと米原の郷土に誇りを持ち、人や地域を愛し大切に生きて生きと暮らせるよう、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を果たしながら地域の特色を生かした施策を総合的に進めます。 ・安心、安全で質の高い教育が受けられる教育環境を作ります。 ・子どもたちの確かな学力と生きる力の育成に努めます。 ・地域に密着した小規模校ならではの良さを生かし、地域で支える魅力ある学校づくりを進めます。 ・市民主役の生涯学習とスポーツの推進に取り組みます。 ・伝統行事など指定文化財の継承支援や、合併10年を迎える米原市にとって「これぞ米原」といえる地域資源を確立し、米原らしさを未来につなげる歴史文化のまちづくりに取り組みます。 ・教育委員会制度改革に対応するため、教育に係る責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長部局との連携強化を図るとともに、その基本方針となる教育振興基本計画の見直しに着手するなど、米原市の教育行政のさらなる発展に努めます。
--

（単位：千円）

施策レベル			事務事業（細事業）レベル							上半期進捗状況			年度末達成状況							
重点目標 タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	統計の位置付け	骨格政策 提案	重点目標達成に向けた 主な事務事業（細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	予算額	所管名 （局・課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗 度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針				
			新規規 充	拡充 統				うち一般 財源額												
1	安全で快適な学習環境の提供		1	1	③	1	小学校施設整備事業	・小学校長寿命化計画策定 ・伊吹小学校エレベータ設置 ・山東・大原小学校非構造物撤去 ・3小学校トイレ洋式化工事外	353,920	教育総務課	主な工事は夏休み期間を利用し授業に支障がないよう工事を進めた。 ・非構造物改修、トイレ洋式化改修は完了 ・伊吹小エレベーターは12月末工期で工事中 ・長寿命化計画は業者選定中。	順調	作業中の業務を確実に完了する。	・予定していた工事は、すべて順調に完了した。トイレ洋式化改修工事、非構造物材耐震改修工事については、夏休み期間に終え2学期に間に合うことができた。 ・長寿命化計画策定については、プロポにより業者を決定し、春休み期間に現地調査を実施する。	完了 ・伊吹小エレベータ設置 ・山東、大原小非構造物材耐震改修 ・小トイレ洋式化改修 ・柏原、米原小電話システム改修 実施中 ・小学校長寿命化計画策定業務	4：目標をやや上回る成果	・来年度策定する長寿命化計画に基づき施設整備を進める。			
			○	①	73				46,356											
			1	・将来に向けての各学校施設の長寿命化計画を策定すると共に、安心安全快適な教育環境を整備を進めていきます。 ・安心安全と共にバランスのとれた学校給食の提供と地産地消の推進に努めます。	・小中学校の長寿命化計画を策定する。 ・中学校にエアコンを設置する。 ・教育環境改善のため小中学校施設を改修する。	1	1	③	2	中学校施設整備事業	・中学校長寿命化計画を策定して、学校施設の延命化の方針を決定するとともに、喫緊の課題である非構造物材耐震化工事、トイレの洋式化工事設計、柏原中エレベータ工事設計、双葉中学校テニスコート補修工事を行う。 ・6中学校空調工事は平成26年度繰越予算により実施し、残暑に間に合うように取り組む。	122,174 （H26繰越含み440,874）	教育総務課	主な工事は夏休み期間を利用し授業に支障がないよう工事を進めた。 ・空調設備整備、非構造物改修、双葉中テニスコート改修は完了 ・大東中トイレ設計、柏原中エレベーター設計は、作業中 ・長寿命化計画は業者選定中	順調	作業中の業務を確実に完了する。	・予定していた工事は、すべて順調に完了した。特に空調設備工事、非構造物耐震改修工事については、夏休み期間に終え2学期に間に合うことができた。 ・柏原中エレベータ設置工事の追加補助採択を受け、繰越事業により実施する。 ・長寿命化計画策定については、プロポにより業者を決定し、春休み期間に現地調査を実施する。	完了 ・空調設備設置 ・伊吹山、米原、河南中非構造物材耐震改修 ・柏原中電話システム改修 ・大東中トイレ改修設計 ・柏原中エレベータ設計 実施中 ・柏原中エレベータ設置 ・小学校長寿命化計画策定業務	4：目標をやや上回る成果	・来年度策定する長寿命化計画に基づき施設整備を進める。
						○	①	73				21,218 （H26繰越含み37,218）								
1						1	1	②	3	学校給食運営事業	・地産の食材をできる限り使用して、栄養バランスのとれた安全で安心な学校給食の提供（食物アレルギー食の対応）を行う。 ・平成29年4月の消費税率10%改定に向けて、県内他市の状況も踏まえながら調査を継続する。	330,091	学校給食課	・出来る限り地場産物を取り入れ安心安全なバランスある学校給食の提供が行えた。「6月の地場産活用率は昨年並の33.5%」 ・食物アレルギーのある子どもへの対応は無事故でレベル4の対応をすることが出来た。	概ね順調	・本年度は天候の影響もあり、活用率は伸び悩んだが、今後も活用率の向上に努める。 ・アレルギー対応食の確実な対応を行う。	・出来る限り地場産物を取り入れ安心安全なバランスある学校給食の提供が行えた。地場産活用率（県調査による）は「昨年(36.6%)に対し天候の影響もあり6月は33.5%・11月は35.3%であった。（平均34.4%）」 ・食物アレルギーのある子どもへの対応は無事故でレベル4の対応をすることが出来た。	地場産活用率25.0%	4：目標をやや上回る成果	出来る限り地場産物を取り入れ安心安全なバランスある学校給食の提供が行えるよう現在の活用率以上を目標とするよう努め、アレルギーのある子どもへの対応も継続して行う。
						○	①					138,175								

施策レベル			事務事業（細事業）レベル							上半期進捗状況				年度末達成状況					
重点目標 タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	統計の位置付け		政策 指針 提案	重点目標達成に 向けた 主な事務事業 （細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	予算額 うち一般 財源額	所管名 （局・課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗 度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針		
			新規 拡充	継続 統廃															
2	子どもたちの確かな学力と生きる力の育成	・学力状況調査、生活実態調査の全国レベル数値を超える	1	1	③	1	確かな学力を保障する体制整備・各校の状況に応じた学習支援	・学力状況調査、生活実態調査の全国レベル数値を目標にする。	2,392	学校教育課	・学力向上に関わる学校訪問を実施し、授業改善を進めた。 ・学力状況調査、生活実態調査の分析を行い、市の課題を明確にした。 ・児童生徒の意欲を高め学力を高めるための効果的な指導方法の調査研究を進めた。	概ね順調	・学校訪問を全ての学校で実施し、学力向上に関わる授業改善を進める。 ・学力状況、生活実態の課題を市内の学校で共有し、共通の目標とする。 ・調査研究の結果を発表大会において教職員に周知する。	・学校訪問によって、学び合いの授業づくりを積極的に導入した。 ・学力状況調査等から明確になった課題を研究大会で共有し、指導の方向性を示した。 ・部会において少人数教育のあり方、ＩＣＴ機器の活用方法を検証し、市内の教職員に周知した。	・学力状況調査、生活実態調査の全国レベル数値を目標にする。	4：目標をやや上回る成果	・アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学び合いの授業をめざす。 ・ＩＣＴ機器（電子黒板）の導入により、わかる授業を目指す。		
			○																
			1	1	③	2	35人学級編制の実施	・35人以下の学級編成または少人数指導を市内すべての小中学校で実施することにより、学習指導、生活指導において一人ひとりの児童生徒に応じたきめ細かな指導を行い、児童生徒の学力の向上と生活の安定を図る。	・35人学級編成または少人数指導の完全実施	21,008	学校教育課	順調	・すべての小中学校で35人以下の学級編制または少人数指導を実施し、個々に応じたきめ細かな指導を行った。 ・少人数教育の効果について検証を始めた。	・すべての小中学校で個々に応じたきめ細かな少人数教育を進め、学力、生活力の向上をめざす。 ・少人数教育の効果について、学力、生活力についてアンケート等で検証する。	・35人学級編制、少人数指導において、ペア学習、グループ学習を重視し、学力向上に努めた。 ・少人数教育に関わるアンケート（35人学級に関わる学級の保護者）では、8割が肯定的な意見で、少人数の効果が明確になった。	・児童生徒個々に応じたきめ細かな指導の充実	3：目標通りの成果	・35人学級編制の完全実施を県に要望する。	
			○																
			1	1	④	3	家庭の教育力向上事業	・家庭の教育力向上のために、家庭教育推進プロジェクトチームを設置し、関係各課の家庭教育応援メニューとしての事業を実施したり、家庭の教育力を視点においた教育フォーラムを青少年育成市民会議などの関係団体と合同で開催するなど、包括的に家庭教育を推進します。 ・年度初めの家庭教育フォーラムの開催、伊吹山テレビにおけるスポットＣＭ、特別番組の放送を行い、家庭教育力向上の普及啓発を図る。	441	生涯学習課	・4月25日（土）家庭教育フォーラムを開催したほか、リーフレットを活用して、小学校ＰＴＡ会議等での周知を図った。 ・6つのテーマについて、伊吹山テレビでスポットＣＭ・特集番組を放映し、広報まいばらでも紹介をおこない、市民周知につなげた。	概ね順調	・家庭教育推進プロジェクトチームを設置し、関係各課の家庭教育応援メニューの検討をおこなう。	・4月25日（土）家庭教育フォーラムを開催したほか、リーフレットを活用して、小学校ＰＴＡ会議等での周知を図った。 ・6つのテーマについて、伊吹山テレビでスポットＣＭ・特集番組を放映し、広報まいばらでも紹介をおこない、市民周知につなげた。 ・社会教育委員会で現行リーフレットの改変を協議	・家庭の教育力向上事業の実施（フォーラム開催・リーフレット配布・スポットＣＭと特別番組の制作放映）	3：目標通りの成果	・リーフレット改変によるフォーラム開催。 ・子育て支援課と連動した出前講座メニューの提案		
			○																
3	地域で支える魅力ある学校づくり	・地域に密着した小規模校ならではの良さを生かし、学校支援地域本部事業に取り組み、学校支援ボランティア（学校応援隊等）や地域の皆さんとの連携・協力を図りながら魅力ある学校づくりに取り組むとともに、いじめや問題行動の未然防止を図り、安全で安心できる学校づくりに取り組みます。	地域連携、小中連携による小規模校の教育活動の充実	1	1	③	1	小規模校の教育活動の充実	・市内小中学校において地域の人材の活用による地域に根ざした特色ある学校づくり、学校支援地域本部事業、小中学校の連携推進等により小規模校の充実を図る。また、地域人材や素材の更なる活用を図るための研究会やフォーラムを開催する。 ・学校経営予算制度（校長枠）を生かし、現場に寄り添った学校づくりを進める。	9,508	学校教育課	概ね順調	・特色ある学校づくり事業、学校支援地域本部事業により地域に根ざした学校づくりを進める。 ・各中学校区において教育フォーラムを計画した。 ・学校経営予算については、ＩＣＴ機器や読書活動等、校長の思いをふまえた執行を行った。	・特色ある学校づくり事業、学校支援地域本部事業により地域に根ざした学校づくりを進める。 ・各中学校区において教育フォーラムを開催する。 ・学校経営予算については、校長の意見を参考に使いやすいものに改善していく。	・地域の人々のもつ豊かで専門的な知識や技能を活用し、地域や各校の特色を生かした学校づくりを進めることで、学力や生活力の向上につなげていくことができた。 ・各中学校区において、パネルディスカッションやグループでの懇話会等を行うなど、地域と学校とのあり方を考えるフォーラムを実施した。 ・学校経営予算によって、緊急対応を行うなど、校長の思いを踏まえた学校づくりを進めることができた。	・地域連携、小中連携による小規模校の教育活動の充実	4：目標をやや上回る成果	・学校支援地域本部事業を拡充する。（伊吹山中学校区、米原中学校区）	
				○															
				1	4	①	2	いじめ、問題行動の未然防止	・米原市いじめ問題専門委員会により学校と教育委員会が連携し、いじめ問題への対応や、未然防止対策に努める。 ・重大事態に対応するため、米原市いじめ問題調査委員会に対応する。	・いじめ・問題行動の未然防止（いじめ・問題行動の減少）	3,336	学校教育課	概ね順調	・米原市いじめ問題専門委員会を開催し、各学校のいじめ問題に対応する。 ・いじめ問題調査委員会を開催し、重大事態への対応を行った。	・いじめ問題専門委員会を開催し、各校のいじめ問題に対応するとともに、学校、行政、警察との連携を強化する。	・いじめ問題専門委員会では、緊急対応策を検討し、各校への助言・支援を行った。 ・いじめ問題専門委員会が主体となり、研修会を実施した。	・いじめ・問題行動の未然防止（いじめ・問題行動の減少）	3：目標通りの成果	・いじめ問題専門委員会において、他の機関との連携を強化する。
				○															
				1	1	③	3	読書活動推進事業	・児童の読書環境の整備・充実を図るため、学校支援地域コーディネーターが学校と地域をつなぎ、市民ボランティアとともに子どもたちの読書活動を支援する。	・学校支援地域コーディネーターの活動状況、市民ボランティアが学校に関わる度合	1,002	学校教育課・図書館	概ね順調	・市民ボランティアによるお話しや図書館の整備等、読書環境の充実を図った。 ・伊吹小学校で図書館の改造を行った。 ・「増田喜昭さん講演会」の開催（4/26） ・巡回文庫の実施（5月連休明けより） ・伊吹小の学校図書館大改造（6/13） ・コーディネーターによる各学校読書支援ボランティアの活動支援（修理、環境整備等）	・市民ボランティアとの連絡を密にし、読書環境の充実を図るなど、児童生徒の読書活動を支援する。 ・河南小学校で図書館の改造を行う。 ・成果報告会の開催（11/22） ・河南小の学校図書館大改造（12月） ・『学校図書館カルテ』の作成 ・各学校図書館訪問と支援	子どもたちの読書環境の整備を目的として、伊吹および河南の両小学校で図書館の改造を行い、検証授業が実施された。 また、子どもたちへの読書支援やコーディネーターの活動状況などの成果を報告する場を設け、情報の共有を図った。	学校および市民ボランティアとの調整役として、地域コーディネーターが市内全小学校に関わった。	3：目標通りの成果	引き続き学校図書館の整備を推進するとともに、学校司書の配置について学校現場や関係課と連携して進めていく。
				○															

施策レベル			事務事業（細事業）レベル							上半期進捗状況			年度末達成状況						
重点目標 タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	総計の位置付け		骨格 指標 案	重点目標達成に 向けた 主な事務事業 （細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	予算額 うち一般 財源額	所管名 （局・ 課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗 度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針		
			新 規	充 続															
4	市民主役の生涯学習とスポーツの推進	・市民スポーツの推進を図ると共に、市体育協会、スポーツ少年団事務局移管に向けた体制整備、国体を見据えたトップアスリート交流事業を実施します。 ・地域における生涯学習のリーダー・コーディネーターとして活躍いただける人材の育成に努め、郷土に誇りを持つことの大切さを伝えます。	・スポーツ推進の満足度の向上 ・まなびサポーター登録者の増加	1	2	⑤	1	スポーツ推進事業	・スポーツ施策の推進による競技者、指導者の増加	2,620	生涯学習課	概ね順調	・11月15日、NHKジュニアスポーツ教室を開催し、次世代育成に取り組む。	・「市体育協会」「市スポーツ少年団事務局」移管に向けた体制整備の協議を開始 ・国体を見据えたトップアスリート交流事業として「ホッケー教室」を開催 ・伊吹山テレビで各スポーツ少年団の活動紹介を開始し、市民周知につなげた。	・スポーツ施策の推進による競技者、指導者の増加	3：目標通りの成果	・スポーツ推進計画実施計画に基づいた進行管理		
				○		①													
				1	2	⑤	2	国体開催に向けて	・課題となっているホッケー会場の施設整備の方針について、関係機関と調整する。	・ホッケー会場の整備方針の調整	0	教育総務課・生涯学習課	概ね順調	・ホッケー会場の施設整備について、引き続き協議を進める。	・滋賀県ホッケー協会、滋賀県国体事務局など関係機関と協議をし、米原市としての考え方を整理した。	・滋賀県ホッケー協会、滋賀県国体事務局など関係機関と協議をし、米原市としての考え方を整理した。	・ホッケー会場の整備方針の調整	3：目標通りの成果	・東京オリンピック・パラリンピック2020の事前合宿地調整にかかる施設整備を協議
				○		①													
1	3	③	3	地域人材育成事業	・ルッチ大学卒業生によるまちづくりルッチ大学の企画運営を市民主導型に近づける（ルッチ未来会議）とともに、利用者ニーズから「まちづくりコース」と「地元学」コースに分岐させる検討を進める。 ・地域人材の活用としてまなびサポーター制度の充実、出前講座の利用拡大を図る。	・ルッチ大学企画会議（ルッチ未来会議）の設立・開催 ・まなびサポーター登録者の増	970	生涯学習課	概ね順調	・ルッチ大学講師陣と卒業生によって「ルッチみらい会議」を設立し、本年10月開校の大学第8期開校の詳細を検討し、企画運営を市民主導型に転換させた。 ・「まなびサポーター制度」と「出前講座」の活用実態は8月末で計144件となった。	・10月より3年制のルッチまちづくり大学に再編するとともに「まちづくりコース」と「地元学コース」の分岐を整理する。	・ルッチ大学講師陣と卒業生によって「ルッチみらい会議」を設立し、本年10月開校の大学第8期開校の詳細を検討し、企画運営を市民主導型に転換させた。 ・「まなびサポーター制度」と「出前講座」の活用実態は8月末で計144件となった。	・ルッチ大学企画会議（ルッチ未来会議）の設立・開催 ・まなびサポーター登録者の増	4：目標をやや上回る成果	・ルッチみらい会議による「ルッチまちづくり大学」の企画運営を軌道に乗せる。 ・出前講座を一本化させ、行政担当者・各種団体・市民による講師種別を設ける。				
○		③																	
5	米原らしさを未来につなげる歴史文化のまちづくり	・伝統行事など指定文化財の継承支援や、合併10年を迎える米原市にとって「これぞ米原」といえる地域資源の確立に取り組む。 ・重要文化的景観の選定を受け、これまでの先人が育んだ生活・文化を踏襲しつつ、暮らしやすい東草野を目指す。	・重要文化的景観選定後における文化的景観保存管理計画に基づき整備事業を推進 ・指定文化財の継承を支援し、合併10年を迎える米原市の「これぞ米原」として、流星の打ち上げに向け取り組む。また、地域の遺産を活かしたまちづくりを全国に発信する「全国山城サミット」を開催する。	3	3	②③	1	文化のまちづくり推進事業	・市芸術展覧会を開催し芸術への関心を高める。 ・ルッチプラザ事業について、施設内レイアウトの一部を変更し、新規事業によって新たな利用者獲得を行う。	4,317	生涯学習課	概ね順調	・運営委員会を通して米原市芸術展覧会の作品募集を実施した。 ・施設内のフリースペースを整備した。またエントランスや健康ルームの新規活用を提案し、施設稼働率を向上させた。	・芸術展覧会を開催することで、芸術文化振興の精度を高める。	・運営委員会を通して米原市芸術展覧会の作品募集を実施した。 ・施設内のフリースペースを整備した。またエントランスや健康ルームの新規活用を提案し、施設稼働率を向上させた。	・市芸術展覧会への出品数の増（今年度実績：381点） ・ルッチプラザ利用者の増	4：目標をやや上回る成果	・米原市芸術展覧会の企画運営を行政主導型から市民組織に移行させるよう協議を進める。	
				○		③													
				3	3	②③	2	文化的景観事業	・文化的景観事業の推進により、東草野地域（甲津原、曲谷、甲賀、吉槻）の日々の生活に根ざした身近な景観を次代へと継承し、地域を守る人との地を訪れる人との交流を図りながら、地域の良さを知り地域の活性化の一助となることを目指す。	・整備活用委員会の開催、整備活用計画の策定 ・普及啓発事業の開催（地域見学ツアー開催、マップ作成） ・重要構成要素整備協議（五色の滝周辺遊歩道）	2,020	歴史文化財保護課	概ね順調	・選定後の整備活用計画の策定－策定中 ・地域見学ツアー開催－顕教踊り見学会（8/15）参加者14人 ・五色の滝周辺遊歩道協議－地元と構想協議中	・整備活用委員会の開催、整備活用計画の策定完成 ・五色の滝周辺遊歩道協議完了	・整備活用委員会－3/16開催 選定後の整備活用計画策定中 ・地域見学ツアー－石切り場見学（12/6）参加者21人、甲津原オコナイ見学（2/13）参加者7人 ・五色の滝整備周辺遊歩道協議－地元と構想協議中	同左	3：目標通りの成果	重要な構成要素整備のため、地元調整を図りながら整備に向け事業を進める。
				○		③													
1	2	③	3	文化財保護活動事業	・指定文化財の継承を支援 ・流星の打ち上げ実施（11月頃） ・打ち上げによる後継者育成に向けて、関係者・県との協議の継続と、火薬免許取得等の経費の補助。 ・城のまち米原を全国に発信する「山城サミット」の開催	・流星保存会の活性化 ・「山城サミット」参加者	3,896	歴史文化財保護課	概ね順調	・指定文化財補助金は、25団体のうち23団体交付決定済 ・実行委員会の開催－7/14 ・火薬庫等の修理－8/未完了	・指定文化財補助金は、25団体交付決定済 ・流星の打ち上げ（11/3）	同左	・指定文化財補助金－24/25団体交付決定済 流星 ・実行委員会の開催－7/14、10/28、12/25。ボランティアスタッフ説明会－11/19 ・流星打ち上げ（11/23）10本打上げ成功 山城サミット ・実行委員会開催－6/26、8/27 ・山城サミットの開催（10/24・/25）延べ700人参加	4：目標をやや上回る成果	流星については、技術の伝承・後継者育成を図るため、定期的な打ち上げ場所等の環境整備を図る。				
○		③																	

総 合 計 画 体 系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
1. 誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち	1. 地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる	①「生きる力」を育む教育の充実 ②給食関連施設や農業を通じた食育の充実 ③子どもを支える教育環境の充実 ④家庭や地域の教育力の向上			
			1. 事務局教育振興事業	教育総務課	校外活動等バス管理
			2. 小学校管理運営事業	教育総務課	小学校施設管理・バス通学補助
			3. 小学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童修学援助(小) 特別支援教育就学奨励
			4. 小学校施設整備事業	教育総務課	
			5. 中学校管理運営事業	教育総務課	
			6. 中学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童修学援助(中) 特別支援教育就学奨励
			7. 中学校施設整備事業	教育総務課	
			8. 学校給食総務管理事業	学校給食課	
			9. 学校給食事業	学校給食課	学校給食施設維持管理・運営事業
			10. 事務局教育振興事業	学校教育課	就学指導委員会、通級指導教室
			11. 教育センター事業	学校教育課	免許外指導等解消講師派遣・学力状況調査
			12. 子どもケアサポートセンター事業	学校教育課	子どもケアサポーター・教育相談・心の教育相談
			13. 小学校管理運営事業	学校教育課	
			14. 小学校教育振興事業	学校教育課	
			15. 中学校管理運営事業	学校教育課	
			16. 中学校教育振興事業	学校教育課	
			18. 生涯学習のまちづくり事業	生涯学習課	
			33. 幼稚園管理運営事業	保育幼稚園課	
			34. 次代を担う青少年育成事業	子育て支援課	
			35. 少年センター事業	こども家庭課	
			2. 誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる		
			①文化芸術の振興		
			②市民文化活動への支援		
			③文化遺産の保存活用		
			④競技スポーツの充実		
			⑤スポーツ振興のための支援		
			⑥スポーツ環境の整備		
			21. 文化のまちづくり事業	生涯学習課	
			26. 体育施設管理経費	生涯学習課	

総合計画体系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
			27. 生涯スポーツ推進体制整備事業	生涯学習課	
			22. 文化芸術振興施設管理運営事業	生涯学習課	
			28. 文化財保護事業	歴史文化財保護課	
			29. 文化財施設管理運営事業	歴史文化財保護課	
			30. 文化的景観保護推進事業	歴史文化財保護課	
		3. 人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
		①地域で学ぶ環境づくりの推進 ②学びの場づくりの推進 ③学びを活用できる環境づくりの推進 ④図書館整備の充実			
			17. 社会教育総務管理事業	生涯学習課	
			18. 生涯学習のまちづくり事業	生涯学習課	
			20. 地域人材育成事業	生涯学習課	ルッチ大学運営事業
			23. 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	生涯学習課	
			24. 成人式開催事業	生涯学習課	
			25. 公民館管理運営事業	生涯学習課	
			31. 図書館管理運営事業	図書館	
			32. はにわ館管理運営事業	図書館	
		4. 一人ひとりが尊重され平和を大切にすまちをつくる			
		①多様な学習機会の充実 ②多文化共生の推進 ③男女共同参画の推進			
			19. 人権教育推進事業	生涯学習課	人権教育啓発推進事業
	2. 市民の絆で築く心と体の健康なまち				
	3. 高齢者や障がいのある人がいきいきと元気に暮らせるまちをつくる				
		④高齢者の健康づくりの促進			
			27. 生涯スポーツ推進体制整備事業	生涯学習課	
	3. 田舎都市が魅せるいやしのまち				
	3. 美しい風景を守り維持するまちをつくる				
		②地域の良さを活かした景観の形成			
			30. 文化的景観保護推進事業	歴史文化財保護課	

(3) 点検および評価等の結果

主要な施策の成果説明書の事業ごとに、教育委員会に関連する事務を 35 事業に分類し、事業ごとに点検および評価等を行いました。

○ 事業ごとに、総合計画上の位置付け、政策・基本施策・単位施策・基本事業を記載しています。

(ア) 平成 27 年度の予算額、決算額、執行率および決算における財源内訳を下表「財源内訳の略称」のとおり示し、当該事業の概要を記載しています。

(イ) 事業の指標として、平成 27 年度における進捗度および市民一人あたりのコスト等をあげています。

① 市民一人あたりの金額は、決算額を平成 27 年度末現在の米原市人口 39,864 人で除した数値です。

(ウ) 対象事業の主な実績を記載しています。

(エ) 対象事業の達成度を A から E の 5 段階の評価を行い、評価の内容をまとめています。

【評価ランク】

A	期待以上に達成できた	・当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ・当初計画以上に早く事業が完了した
B	期待をやや上回る程度に達成できた	・変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ・初期の目的をおおむね達成できた
C	期待どおり	・前年度と同様の実績であった ・ほぼ計画どおり事業を実施できた
D	やや不十分である	・期待を下回る実績であった ・事業は、実施できたが、成果についてはやや課題が残った
E	不十分である	・当該年度の計画が実施できなかった

【財源内訳の略称】

財源の名称	略号	財源の名称	略号
分担金および負担金	分	寄付金	寄
使用料および手数料	使	繰入金	繰
国庫支出金	国	繰越金	越
県支出金	県	諸収入	諸
財産収入	財	一般財源	一般
市債	債		

【対象事業の評価一覧】

対象事業の評価を行った結果の主管課別評価は以下のとおりとなりました。

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
1	事務局教育振興事業	C	教育総務課
2	小学校管理運営事業	B	〃
3	小学校教育振興事業	C	〃
4	小学校施設整備事業	A	〃
5	中学校管理運営事業	C	〃
6	中学校教育振興事業	C	〃
7	中学校施設整備事業	A	〃
8	学校給食総務管理事業	C	学校給食課
9	学校給食事業	C	〃
10	事務局教育振興事業	B	学校教育課
11	教育センター事業	B	〃
12	子どもケアサポートセンター事業	C	〃
13	小学校管理運営事業	C	〃
14	小学校教育振興事業	C	〃
15	中学校管理運営事業	C	〃
16	中学校教育振興事業	C	〃
17	社会教育総務管理事業	B	生涯学習課
18	生涯学習のまちづくり事業	C	〃
19	人権教育推進事業	C	〃
20	地域人材育成事業	A	〃
21	文化のまちづくり事業	C	〃
22	文化芸術振興施設管理運営事業	C	〃
23	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	C	〃
24	成人式開催事業	C	〃
25	公民館管理運営事業	C	〃
26	体育施設管理経費	C	〃
27	生涯スポーツ推進体制整備事業	B	〃
28	文化財保護事業	B	歴史文化財保護課
29	文化財施設管理運営事業	C	〃
30	文化的景観保護推進事業	C	〃

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
3 1	図書館管理運営事業	C	図 書 館
3 2	はにわ館管理運営事業	C	〃
3 3	幼稚園管理運営事業	C	保育幼稚園課
3 4	次代を担う青少年育成事業	B	子育て支援課
3 5	少年センター事業	C	こども家庭課

主 管 課 名	A	B	C	D	E	対象事業数
教育総務課	2	1	4			7
学校給食課			2			2
学校教育課		2	5			7
生涯学習課	1	2	8			1 1
歴史文化財保護課		1	2			3
図 書 館			2			2
保育幼稚園課			1			1
子育て支援課		1				1
こども家庭課			1			1
計	3	7	2 5			3 5

事業番号		1				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	事務局教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	8,565,000	10,298,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	6,720,310	8,630,025	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	78.5	83.8	一般財源	6,720,310	8,630,025	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
県立米原高等学校未登記地の所有権移転登記の具体的な進捗が図れなかったため。						
事業コスト		事業費	人件費（ 0.40 人 役 ）	計		
決 算 額		6,720 千円	2,974 千円	9,694 千円		
市民1人当たり （ 39,864 人 ）		169 円	75 円	244 円		
事業の目的および内容						
(1)総合的な学習を通じ、子どもたちに幅広い体験ができるようバスを運行し、校外活動の充実や学校間の交流を促進します。 (2)県立米原高等学校の未登記となっている用地2筆の所有権移転登記を行います。						
事業の実績						
※小学校児童数2,064人、中学校生徒数1,244人（平成27年5月1日現在）						
(1)学校支援バスをバス事業者への委託により運行したほか、伊吹地域スクールバス3台、山東小学校スクールバス1台、河南小学校スクールバス1台を校外活動等のため運行しました。 校外活動延べ 176回 内訳 学校支援バス運行経費 6,348,510円 校外活動バス運転手賃金 371,800円						
						
鎌刃城での校外活動の様子						
(2)県立米原高等学校の未登記地所有者と境界確定に向け協議を進めました。						
評価の内容						評価
市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習・環境学習および創作活動などの様々な体験を通じて、子どもたちの社会性を養う一助となりました。						C

事業番号		2					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費		
事業名		継続	小学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度
予算額		34,965,000	41,832,000	国 費		0	2,570,000
うち繰越		0	0	県 費		0	17,000
決算額		30,135,248	38,991,692	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		0	0
執行率（％）		86.2	93.2	一般財源		30,135,248	36,404,692
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費		人件費（ 1.05 人 役 ）		計	
決 算 額		30,135 千円		7,808 千円		37,943 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		756 円		196 円		952 円	
児童1人当たり（ 2,064 人 ）		14,600 円		3,783 円		18,383 円	
事業の目的および内容							
(1)小学校施設の適切な維持管理により、安全な学習環境を確保し円滑な施設の管理運営を行います。 (2)徒歩通学が困難な児童のためにスクールバスを運行し、安全な通学環境を確保します。							
事業の実績		※小学校児童数2,064人（平成27年5月1日現在）					
(1)小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種管理業務等を委託しました。 10,199,029 円 警備保障、各種設備保守点検、非構造物調査業務など							
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 2,210,666 円 事務機器リース料							
(3)施設の運営に必要な管理備品を購入しました。 1,223,802 円 児童用机、椅子など							
(4)安全な通学環境を確保するため、バス通学者への助成を行いました。 2,539,140 円 バス等利用児童数（単位：人）							
学校名		湖国バス	まいちゃん号	カモン号	合 計		
柏原小学校		36	0	2	38		
米原小学校		0	16	0	16		
河南小学校		5	0	0	5		
息長小学校		12	12	0	24		
合 計		53	28	2	83		
※息長小学校は、登校に湖国バス、下校にまいちゃん号を利用しています。							
(5)伊吹地域（北部、中部、東部）3台、山東小学校および河南小学校のスクール バスの計5台を運行しました。 12,432,299 円 燃料費、運転手賃金など運行経費							
評価の内容							評価
(1)施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。 (2)小学校児童の遠距離通学に対してスクールバスを運行し、安全な通学環境の確保につなげることができました。課題となっていた地域の通学について円滑な調整ができました。							B

事業番号		3				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	
事業名	継続	小学校教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	15,664,000	12,188,000	国 費	631,000	643,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	14,679,893	11,261,477	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	93.7	92.4	一般財源	14,048,893	10,618,477	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費	人件費（ 0.50 人 役 ）	計		
決 算 額		14,680 千円	3,718 千円	18,398 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		368 円	93 円	461 円		
児童1人当たり（ 2,064 人 ）		7,112 円	1,801 円	8,913 円		
事業の目的および内容						
(1)小学校コンピュータ教室の機器を継続的に配備し、情報学習の強化を図ります。 (2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助し、安心できる学習環境を確保します。						
事業の実績 ※小学校児童数2,064人（平成27年5月1日現在）						
(1)情報学習の強化を図るため、コンピュータ機器の継続リースを行いました。 4,112,820 円 コンピュータ教室機器リース料など						
(2)経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。 10,567,073 円 要保護準要保護児童就学援助費 9,303,979 円 特別支援教育就学奨励費 1,263,094 円						
支給対象者の5年間の推移 (単位：人)						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
要保護	1	1	0	1	0	
準要保護	141	138	150	144	151	
特別支援教育就学奨励費	54	49	45	46	41	
評価の内容						評価
(1)コンピュータ教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につなげることができ、情報学習の強化を図ることができました。 (2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。						C

事業番号		4						
款	10 教育費		項	2 小学校費				
			目	3 施設整備費				
事業名		継続	小学校施設整備事業		主管課	教育委員会 教育総務課		
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策		地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
		単位施策		子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		258,149,000		671,514,000		国 費	16,847,000	126,923,000
うち繰越		0		112,749,000		県 費	0	0
決算額		254,975,655		669,032,761		市 債	181,200,000	379,400,000
うち繰越		0		111,804,480		そ の 他	0	106,935,480
執行率（％）		98.8		99.6		一般財源	56,928,655	55,774,281
80%以下の理由						その他の内訳（27年度）		
事業コスト		事業費		人件費（ 1.00 人 役 ）		計		
決 算 額		254,976 千円		7,436 千円		262,412 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		6,396 円		187 円		6,583 円		
児童1人当たり（ 2,064 人 ）		123,535 円		3,603 円		127,138 円		
事業の目的および内容								
(1)老朽施設の解消や不具合箇所の補修など緊急性の高いものから計画的に整備を進め、安全・安心で快適な学習環境を確保します。								
(2)学校施設の長期的な改修や維持管理に係るトータルコストの縮減と費用の平準化を図るため、長寿命化計画を策定します。								
事業の実績		※小学校児童数2,064人（平成27年5月1日現在）						
(1)伊吹小学校エレベーター整備事業		52,961,040 円						
安全と円滑な学校生活を確保するため、エレベーターの設置などバリアフリー化を進めました								
(2)春照小学校・米原小学校・息長小学校便所洋式化改修								
衛生的で快適な学習環境を確保するため、洋式化整備率の低い3校を改修しました。								
工事費		115,624,800円						
工事監理業務委託料		1,382,400円						
								
		息長小学校便所洋式化改修						
(3)山東小学校・大原小学校非構造物改修事業								
安全安心な学習環境を確保するため、非構造部材(吊天井)対策を実施しました。								
工事費		34,599,960 円						
工事監理業務委託料		745,200 円						
(4)柏原小学校・米原小学校電話設備改修事業		17,798,400 円						
安全安心な学習環境を確保するため、2校の電話設備を改修しました。								
工事費		10,202,868 円						
(5)学校長寿命化計画策定事業								
計画的な学校施設の改修を行うための長寿命化計画を策定しました。								
計画策定業務委託料(小学校分)		6,324,480 円						
評価の内容		評価						
各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全・安心で快適な学習環境の確保につなげることができました。便所洋式化工事、非構造物改修工事は、夏休み期間を活用し授業に支障がないよう工事を進めることができました。		A						

事業番号		5				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	
事業名	継続	中学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	13,884,000	14,783,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	11,000	53,000	
決算額	12,293,132	13,263,119	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	88.5	89.7	一般財源	12,282,132	13,210,119	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費	人件費（ 0.75 人役）	計		
決 算 額		12,293 千円	5,577 千円	17,870 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人）		308 円	140 円	448 円		
生徒1人当たり（ 1,244 人）		9,882 円	4,483 円	14,365 円		
事業の目的および内容						
中学校施設の適切な維持管理により、安全な学習環境を確保し円滑な施設の管理運営を行います。						
事業の実績 ※中学校生徒数1,244人（平成27年5月1日現在）						
(1)中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種管理業務等を委託しました。 警備保障、各種設備保守点検、非構造物調査業務など				6,646,692 円		
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器リース料				2,068,905 円		
(3)施設の運営に必要な管理備品を購入しました。 生徒用机、椅子など				1,422,090 円		
評価の内容					評価	
施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。					C	

事業番号		6				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費	
事業名		継続	中学校教育振興事業		主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		17,715,000	15,559,000	国 費	579,000	565,000
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		16,960,880	14,584,975	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	0	0
執行率（％）		95.7	93.7	一般財源	16,381,880	14,019,975
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.50 人 役 ）	計	
決 算 額		16,961 千円		3,718 千円	20,679 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		425 円		93 円	518 円	
生徒1人当たり（ 1,244 人 ）		13,634 円		2,989 円	16,623 円	
事業の目的および内容						
(1)中学校コンピュータ教室の機器を継続的に配備し、情報学習の強化を図ります。 (2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助し、安心できる学習環境を確保します。						
事業の実績 ※中学校生徒数1,244人（平成27年5月1日現在）						
(1)情報学習の強化を図るため、コンピュータ機器の継続リースを行いました。 5,514,300 円						
(2)経済的や身体的な理由により、就学が困難な生徒の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。 11,446,580 円 要保護・準要保護生徒就学援助費 10,289,466 円 特別支援教育就学奨励費 1,157,114 円						
支給対象者の5年間の推移 (単位：人)						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
要保護	3	1	0	1	0	
準要保護	94	84	88	97	105	
特別支援教育就学奨励費	21	22	22	24	25	
評価の内容						評価
(1)コンピュータ教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につなげることができ、情報学習の強化を図ることができました。 (2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。						C

事業番号		7					
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	3 施設整備費		
事業名		継続	中学校施設整備事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度
予算額		711,091,000	830,442,000	国 費		124,830,000	61,408,000
うち繰越		548,000,000	49,794,000	県 費		0	0
決算額		564,418,939	184,860,788	市 債		388,500,000	76,200,000
うち繰越		483,195,240	48,252,240	そ の 他		29,836,240	8,096,240
執行率（％）		79.4	22.3	一般財源		21,252,699	39,156,548
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）			
国の補正予算に伴う事業実施により、柏原中学校エレベーター設置等工事を平成28年度へ繰り越したため。 〈平成28年度への繰越額〉73,986,000円				繰越事業費等充当財源繰越金 29,836,240円			
事業コスト			事業費	人件費（ 1.20 人 役 ）		計	
決 算 額			564,419 千円	8,923 千円		573,342 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）			14,159 円	224 円		14,383 円	
生徒1人当たり（ 1,244 人 ）			453,713 円	7,173 円		460,886 円	
事業の目的および内容							
(1)老朽施設の解消や不具合箇所の補修など緊急性の高いものから計画的に整備を進め、安全・安心で快適な学習環境を確保します。							
(2)学校施設の長期的な改修や維持管理に係るトータルコストの縮減と費用の平準化を図るため、長寿命化計画を策定します。							
事業の実績 ※中学校生徒数1,244人（平成27年5月1日現在）							
(1)中学校空調設備整備事業 快適な学習環境を確保するため、6中学校の教室に空調設備を設置しました。							
工事費						479,490,840円	
工事監理業務委託料						3,704,400 円	
(2)大東中学校・伊吹山中学校・米原中学校・河南中学校非構造物改修事業 安全安心な学習環境を確保するため、非構造物材(吊天井)対策を実施しました。							
工事費						55,148,040円	
工事監理業務委託料						1,026,000 円	
(3)柏原中学校電話設備改修工事業 安全安心な環境を確保するため、電話設備を改修しました。							
工事費						4,600,260 円	
(4)学校長寿化計画策定事業 計画的な学校施設の改修を行うための長寿命化計画を策定しました。							
計画策定業務委託料(中学校分)						4,216,320 円	
(5)柏原中学校エレベーター設置工事設計業務委託 安全と円滑な学校生活を確保するため、エレベーター設置やバリアフリー化設計業務を行いました。							
						2,430,000 円	
評価の内容							評価
各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全・安心で快適な学習環境の確保につなげることができました。空調設備、非構造物改修工事は夏休み期間を活用し授業に支障がないよう工事を進めることができました。							A

事業番号		8									
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費						
事業名	継続	学校給食総務管理事業				主管課	教育委員会 学校給食課				
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち								
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる								
		単位施策	給食関連施設や農業を通じた食育の充実								
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度						
予算額	644,000	587,000	国 費	0	0						
うち繰越	0	0	県 費	0	0						
決算額	562,183	529,912	市 債	0	0						
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0						
執行率（％）	87.3	90.3	一般財源	562,183	529,912						
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）								
事業コスト		事業費	人件費（ 0.50 人 役 ）	計							
決 算 額		562 千円	3,718 千円	4,280 千円							
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		14 円	93 円	107 円							
事業の目的および内容											
給食施設および学校給食の適正かつ円滑な運営を図ります。											
事業の実績											
(1)学校給食運営委員会を3回開催し、学校給食の運営に関する協議事項の審議、意見を求めました。 委員報酬（学校給食運営委員）（3回） 130,000円 運営委員数 17人 （報酬支払対象11人）											
(2)食物アレルギー対応検討委員会を開催し、食物アレルギーを持つ園児・児童・生徒への代替食・除去食の対応および次年度に向けての検討を行いました。 委員報償費（食物アレルギー対応検討委員）（2回） 8,000円 平成27年度の食物アレルギー対応人数 東部給食センター分 66人 西部給食センター分 47人 計113人（平成26年度：105人） 食物アレルギー食品別一覧（人数）											
項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他 （チョコレート等）
東部	27	15	7	8	12	22	0	15	1	0	4
西部	20	7	6	7	15	10	0	14	4	1	4
(注)1人で複数の食物アレルギーを持っている子どもがいるため、実人数は113人です。											
(3)保護者の給食費口座振替について、各金融機関へ口座振替手数料を負担しました。 給食費保護者負担金口座振替手数料 417,183円（38,693件）											
評価の内容							評価				
(1)運営委員会では委員から意見を聴取し、給食業務の円滑な運営に反映しました。 (2)食物アレルギー対応検討委員会では食物アレルギーへの適切な対応を検討することにより、アレルギーを持つ子どもへ安心安全な学校給食を提供することができました。							C				

事業番号		9									
款	10 教育費		項	6 保健体育費							
目	4 学校給食費										
事業名		継続	学校給食事業		主管課	教育委員会 学校給食課					
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち							
		基本施策		地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる							
		単位施策		給食関連施設や農業を通じた食育の充実							
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）	27年度		26年度		
予算額		338,309,000		331,807,000		国 費	0		0		
うち繰越		0		0		県 費	0		0		
決算額		331,882,620		325,281,903		市 債	0		0		
うち繰越		0		0		そ の 他	189,480,971		187,920,735		
執行率（％）		98.1		98.0		一般財源	142,401,649		137,361,168		
80%以下の理由						その他の内訳（27年度） 東部給食センター調理研修室使用料 2,400円 講座受講料 29,750円 学校給食用牛乳供給事業補助金 18,757円 廃食油売却収入 24,525円 学校給食保護者負担金 180,627,939円 特定教育・保育施設使用料（給食費分） 8,777,600円					
事業コスト				事業費		人件費（ 8.50 人 役 ）		計			
決 算 額				331,883 千円		63,206 千円		395,089 千円			
市民1人当たり（ 39,864 人 ）				8,325 円		1,586 円		9,911 円			
事業の目的および内容											
食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し生活の多様化が進む中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安全で安心な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。											
事業の実績											
学校および園にアレルギー食を含めた安心安全な給食を提供するため、給食センターの適正な管理運営と、食材に地場産物を積極的に取り入れ、特徴ある献立作成に努めました。 学校給食衛生管理基準に基づく衛生面に配慮し、厨房・機械設備の維持点検を行いました。 調理実習や研修事業を展開し、食育の推進に努めました。											
(1)給食提供数（職員を含む。） 平成28年3月現在											
区 分		東部給食センター		西部給食センター		計					
		校園数	食数	校園数	食数	校園数	食数				
幼稚園・認定園		4	597 食	1	99 食	5	696 食				
小学校		6	1,219 食	3	1,101 食	9	2,320 食				
中学校		4	775 食	2	594 食	6	1,369 食				
合 計		14	2,591 食	6	1,794 食	20	4,385 食				
(2)給食回数と主食の内容											
項 目		東部給食センター		西部給食センター							
米飯給食		152 回		152 回							
パン給食		17 回		17 回							
麺給食		22 回		22 回							
合 計		191 回		191 回							
(3)東部・西部給食センターにおける食育推進事業											
①食に関する指導体験学習（発達段階に応じた食に関する指導を実践） グリーンピースのさやむき体験（2年生10回） 赤かぶ漬け体験（1回） 味噌作り体験（10回）											
②食に関する指導特別給食 給食を通じて、栄養バランスを考えて食品を選択することを実践し、先生や友人と楽しく会食したり卒業前の良い思い出作りの場にもなりました。また、食事のマナーなどを学ぶ機会にもなりました。 お鍋給食とミニバイキング（14回） バイキング給食（6回） お楽しみ給食（5回）											

事業の実績

- ③保護者への食育
市内各校園で親子給食（給食試食会）や保護者への食に関する講演を実施しました。
親子給食での講演4回（182人）
健康教室1回
センター見学・試食・食育8回
親子料理教室2回(75人)
市民を対象とした親子料理教室を調理研修室で1回開催（参加者25人）
- ④食育に関する情報発信
給食だよりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介し、市公式ウェブサイトや市広報により給食の写真や献立について情報発信しました。
- ⑤地場産物の導入の促進
JAと連携し、年間を通じた学校給食への地場産物の活用や、給食週間にも郷土料理や地場産物を献立に取り入れる等、地産地消メニューの開発を進めました。
地場産物活用率目標（食育計画：平成30年度目標値 35.0%以上）
地場産物の活用率
平成26年度 平成27年度 県平均活用率
6月調査 34.0% ⇒ 33.5% 29.0%
11月調査 39.3% ⇒ 35.3% 30.5%
- ⑥給食でのアレルギー対策
アレルギー対応の申請をした園児・児童・生徒に除去食、代替食を提供しました。
アレルギー対応をする園児・児童・生徒の家庭に給食の使用食品の情報を伝え、保護者に確認を行いました。給食センター・家庭・学校・園と連携してアレルギー対応食を実施しました。

(4)特色ある給食

項 目	東部給食センター	西部給食センター	計
バイキング給食	4回（中学3年生）	2回（中学3年生）	6回（中学3年生）
お鍋給食	7回（小学6年生）	7回（小学6年生）	14回（小学6年生）
季節の行事食	月1回	月1回	月1回
お誕生日給食			
カミカミメニュー			
日本食生活の日			
ふるさと滋賀給食の日	1回（全校）	1回（全校）	1回（全校）
セレクト給食（給食週間中）			
郷土料理	随時	随時	随時
地元食材の使用			
食べ物の旅給食	月1回	月1回	月1回
賄材料費	108,595,338円	79,096,466円	187,691,804円

(5)衛生管理

学校給食衛生管理基準に基づき、職員の検便検査（月2回）、ノロウイルス検便検査（年1回）、食材検査、施設定期検査およびふき取り検査（学期ごと）を行いました。
東部給食センター 695,335円
西部給食センター 393,828円

(6)施設・厨房機器の管理

施設の設備保守点検を実施し、機能の維持に努めました。

- ①施設・設備等の修理費
東部給食センター(蒸気発生器蓄熱槽等) 9,307,813円
西部給食センター(蒸煮冷却機等) 1,653,899円

主な施設等維持管理業務

項 目	東部給食センター	西部給食センター
衛生害虫防除業務	11回	11回
警備保障業務	年間	年間
自家用電気工作物保守点検	1回／月	1回／月
消防設備保守点検	2回／年間	2回／年間
厨房除害施設保守点検	1回／月	1回／月
業務委託料	3,550,008円	2,434,866円

事業の実績									
(7)施設の主な運営経費 ①子どもに美味しい給食を提供する臨時職員を配置して直営による調理業務を実施しました。 臨時職員賃金 東部給食センター（常勤：18人、非常勤：8人）31,178,286円 西部給食センター（常勤：15人、非常勤：4人）22,295,972円 ②配送業務は、（公社）シルバー人材センターへの委託業務により対応しました。 配送業務委託料 東部給食センター 9,488,880円 西部給食センター 2,846,664円 (8)給食センター施設修繕 西部給食センターにおいて営繕を行いました。 <table> <tr> <td>高圧電気設備機器改修</td> <td>2,046,600円</td> </tr> <tr> <td>蒸気ボイラー修繕</td> <td>286,200円</td> </tr> <tr> <td>厨房機器修繕</td> <td>1,122,984円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,455,784円</td> </tr> </table>	高圧電気設備機器改修	2,046,600円	蒸気ボイラー修繕	286,200円	厨房機器修繕	1,122,984円	計	3,455,784円	
高圧電気設備機器改修	2,046,600円								
蒸気ボイラー修繕	286,200円								
厨房機器修繕	1,122,984円								
計	3,455,784円								
評価の内容	評価								
(1)給食の食材については、JAと連携し安心な地場産物を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均29.8%を上回る34.4%（年平均）となりました。 (2)給食メニューの多様化を図るため、月目標を定め各県の特色ある料理を給食に取り入れたり、市内の行事に合わせた給食（蚩メニュー）やバイキング給食や特色ある給食としてお鍋給食を実施するなど、園児、児童、生徒に食への関心を高めることができました。 (3)東部給食センター調理研修室では、施設見学や試食を通じ地域のサロン活動の一環として体験していただいたり、親子活動として料理教室を開催し、利用促進を図りました。また、毎月広報にバランスの取れた食事として給食レシピを掲載し広く市民に紹介しました。 (4)毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通して食への関心を高めることができました。 (5)食物アレルギー関係については、食物アレルギーを持つ園児・児童・生徒の給食について、代替食・除去食の対応および検討を行い、アレルギーのある子どもに安心安全な学校給食を提供することができました。 (6)施設の適正な保守管理と改修工事、衛生基準に基づく徹底した衛生管理を行い、遅配なく安全な給食を子どもたちに届けることができました。	C								

事業の実績	
(3)いじめ対策関係事業 いじめ等対応支援員を配置し、各校の実態把握に努めるとともに、いじめ問題専門委員会等を開催して、いじめ問題の早期発見・対応策や未然防止などを検討し、各校に発信しました。 いじめ等対応支援員設置（1人） 814,450円 いじめ問題専門委員会開催（6回） 47,250円 いじめ問題調査委員会開催（24回） 952,080円 (4)就学指導委員会（8回） 医師や専門的な識見を有する教育、福祉関係者等20人が委員となる就学指導委員会を開催し、障がいのある72人の幼児・児童・生徒について、調査、審議を行い適切な就学先等について答申を出しました。（平成26年度対象児童：52人） 委員報酬 30,000円 (5)通級指導教室（かしわばら教室・まいばら教室） 56人の対象児童に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、個々の児童の課題に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました。（平成26年度対象児童：58人） 通級指導教室（事務費・教材費等） 501,359円 (6)特別支援教育総合推進事業として相談員による巡回相談と学生支援員の配置 支援が必要な市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の幼児・児童・生徒への支援方法 など延べ92回（平成26年度：85回）の巡回による助言・相談等を行いました。また学生支援員により延べ86回（平成26年度：78回）の支援を行いました。 就学相談等 58,500円 学生支援員報償費 86,000円 (7)少人数学級編制 少人数学級編制（35人学級）のための臨時講師を春照小学校と息長小学校へ配置し、学力向上のため充実した教育環境の整備を実施しました。 少人数学級臨時講師 8,162,318円 (8)中学校非常勤講師派遣 専門教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。 中学校非常勤講師（13人） 9,549,067円 (9)森林環境学習「やまのこ」事業 森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、森林環境学習施設およびその周辺森林で体験型の学習を実施しました。 バス借上料（小学校9校）909,974円 事前事後学習消耗品 129,425円	
	
森林環境学習「やまのこ」	
評価の内容	評価
(1)特色ある学校づくり事業により、地域との連携を進め、学力、生活力の向上に努めました。 (2)いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施、いじめ問題調査委員会の設置等によりいじめの未然防止、解決（26件）につなげることができました。 (3)就学指導委員会、通級指導教室や相談員による巡回相談により、特別な支援が必要な児童・生徒の個々の課題に応じた指導・支援を行いました。 (4)少人数学級編制（35人学級）の完全実施のため臨時講師を派遣して充実した教育環境の整備を行うとともに、中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣して、充実した学習指導の実施に努め、学力向上につなげました。	B

事業番号		11				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名		継続	教育センター事業		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		2,290,000	2,331,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		2,157,078	2,152,542	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	0	0
執行率（％）		94.2	92.3	一般財源	2,157,078	2,152,542
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）		
事業コスト		事業費		人件費（ 1.83 人 役 ）	計	
決 算 額		2,157 千円		13,608 千円	15,765 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		54 円		341 円	395 円	
児童生徒当たり（ 3,308 人 ）		652 円		4,114 円	4,766 円	
事業の目的および内容						
(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員を対象にした研修を実施し、指導力の向上に努めます。 (2)小中学校の児童・生徒の総合学力調査を行い、その結果を踏まえ家庭学習の充実と授業改善を進めます。また、学級集団づくりに関する調査研究、郷土愛に関する調査研究を行います。						
事業の実績						
(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教師を対象に、全職員研修1回、若手職員研修、組織リーダー研修、教頭研修などの職層研修を12回、特別支援教育講座、教育法規講座、授業力アップ講座、地域探訪講座、情報教育講座、就学前講座、校園内研究講座などの希望研修を 年15回実施し、延べ979人の参加がありました。満足度アンケートでは全講座平均96.8%の肯定的回答を得ました。 教育センターおよび各部研修会講師謝礼 159,538円 (2)小中学校の児童・生徒の総合学力調査を5月に実施し、その分析結果を基に、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。また、学級集団づくりに関する調査を行い、学力との関係を明らかにしました。さらに、平成28年度の改訂発行を目指し、社会科副読本「わたしたちの米原市」に準拠したワークシートを作成し、各校に配布しました。そして、それらの成果を調査研究発表大会において発表し、研究紀要にまとめました。 調査研究発表大会：平成28年2月17日（会場：ルッチプラザ） 学力状況調査委託料 897,400円 (3)教育資料の作成に関する事業 米原市教育センターだより「はぐくみ」 研究紀要「米原教育」 研究論文集の発行 印刷製本費 399,402円 (4)その他 各教育関係部会補助金および負担金 504,352円						
評価の内容						評価
(1)教師力の向上を目指して、市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員に各種研修・講座を開催し、今日的課題に即した実践的な研修を行いました。 (2)総合学力調査は、基礎的な学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための基礎資料として活用することができました。 (3)教職員の専門性、指導力の向上を目標に調査研究部会（5部会）を開催しました。部会では、学力向上に向けての授業改善、よりよい学級集団づくり、副読本の活用を通した郷土愛の醸成に努めました。 (4)教育研究奨励事業として114点（平成26年度：93点）の研究論文（個人・グループ・校園研究）の応募があり、自主的な教育研究への意識の高さが伺えました。						B

事業番号		12				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	子どもサポートセンター事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	40,851,000	37,697,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	412,000	480,000	
決算額	38,789,031	36,921,092	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	95.0	97.9	一般財源	38,377,031	36,441,092	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費	人件費（ 1.50 人 役 ）	計		
決 算 額		38,789 千円	11,154 千円	49,943 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		973 円	280 円	1,253 円		
事業の目的および内容						
市内小中学校に子どもケアサポーターやスクーリングケアサポーターの配置、適応指導教室の開設、教育相談の充実により、発達障がい等、特別な支援が必要な児童生徒の個々の課題に応じた対応を行うとともに、不登校児童・生徒の学校、学級復帰に向けた支援をします。						
事業の実績						
(1)学校への子どもケアサポーター派遣 子どもケアサポーター20人を市内9小学校、6中学校に派遣しました。2人のスクーリングケアサポーターを3小学校に年間220回（886時間）派遣しました。（賃金 36,591,428円） ①特別な支援が必要な児童生徒273人（平成26年度：205人）に個々の課題に応じた、きめ細かな指導支援を行いました。 ②不登校傾向のある児童生徒に対して学力や生活力の向上に向けての支援を行いました。						
(2)不登校児童・生徒に対する適応指導教室の運営 適応指導教室では、6人の入級児童生徒と1人の体験入級生徒を2人の指導員が週3回、年間125回の指導を行いました。2人が教室復帰、4人が別室登校できるようになりました。さらに、適応指導教室支援員による学校訪問を実施し、相談・指導・支援等を行いました。また、適応指導教室への通級希望者のため体験活動を実施しました。（賃金 1,751,150円）						
(3)児童・生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定職員（臨床心理士）1人が4会場（セラピールーム：山東庁舎と3公民館）において、年間相談延べ回数99回、36件の児童生徒や保護者、関係する教職員の相談を受けました。						
評価の内容					評価	
(1)特別な支援を必要とする児童・生徒や不登校による別室登校の児童・生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。					C	
(2)不登校傾向の児童・生徒の保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、適応指導教室への通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、適応指導教室における体験活動は、児童・生徒の自立を助けるための有効な活動となりました。						
(3)児童・生徒の不登校、うつ状態等の様々な心配について相談対応し、引きこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の安定といった成果が見られました。						

事業番号		13			
款	10 教育費		項	2 小学校費	
			目	1 学校管理費	
事業名		継続	小学校管理運営事業		主管課
					教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち	
		基本施策		地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる	
		単位施策		子どもを支える教育環境の充実	
事業費（円）		27年度		26年度	財源内訳（円）
27年度		26年度		27年度	25年度
予算額		81,481,000		74,879,000	国 費
うち繰越		0		0	県 費
決算額		70,392,095		71,595,685	市 債
うち繰越		0		0	そ の 他
執行率（％）		86.4		95.6	一般財源
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）	
				小学校共済掛金保護者負担金 884,120円 小学校施設使用料 232,400円	
事業コスト		事業費		人件費（ 0.30 人役）	計
決 算 額		70,392 千円		2,231 千円	72,623 千円
市民1人当たり（ 39,864 人）		1,766 円		56 円	1,822 円
児童1人当たり（ 2,064 人）		34,105 円		1,081 円	35,186 円
事業の目的および内容					
(1)市内9小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行います。 (2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。					
事業の実績		※小学校児童数 2,064人（平成27年5月1日現在・・・学校基本調査基準日）			
(1)一般管理 小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受け入れられるよう、適切な学校管理を行いました。 ①学校評議員報酬（45人） 450,000 円 ②光熱水費 35,559,556 円 ③通信運搬費 2,509,299 円 ④葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料 683,418 円 ⑤事務機器使用料 1,395,402 円 ⑥学校用務員賃金 10,695,614 円 （正規用務員の配置のない柏原小、山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小に配置）					
(2)健康管理 小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行いました。 ①児童・教職員健康診断業務委託 3,485,407 円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 3,916,090 円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,941,795 円 ④結核、心臓精密検査 47,866 円 ⑤飲料水検査（年1回） 69,876 円					
評価の内容					評価
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。 (2)児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を児童、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。 (3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。 また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校運営を行うことができました。					C

事業番号		14				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	
事業名		継続	小学校教育振興事業		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
		単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		66,222,000	41,423,000	国 費	2,602,000	1,398,000
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		64,685,140	40,080,821	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	53,000	290,000
執行率（％）		97.7	96.8	一般財源	62,030,140	38,392,821
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 53,000円		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.59 人役）	計	
決 算 額		64,685 千円		4,387 千円	69,072 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人）		1,623 円		110 円	1,733 円	
児童1人当たり（ 2,064 人）		31,340 円		2,125 円	33,465 円	
事業の目的および内容						
(1)市内9小学校の児童に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動などの様々な体験活動、国際理解協力員による国際理解教育の充実を図り、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。 (2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を目指して、より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。						
事業の実績						
(1)修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金 1,655,325 円 (2)市内の小学校に国際理解教育協力員（4人）を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど、外国語活動、国際理解教育の推進を図りました。 国際理解教育推進事業 17,508,692 円 (3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。また、理科備品については国庫補助を受け充実を図りました。 （理科備品の全国平均充足率52.3% 米原市立小学校平均充足率50.0%） 理科教材備品 5,177,115 円 教育振興備品 2,379,595 円 教師用指導書 22,654,264 円 (4)各学校の教育目標を達成するために、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。 授業力向上を目的とした書画カメラ・プロジェクター等のICT機器の導入や先進地研修、体力向上を目的としたハードル等の体育備品整備等、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度 2,820,680 円 (5)各小学校教育振興費 校内研究会、総合学習、スキー教室など講師謝礼 234,500 円 消耗品費（理科実験用消耗品等） 9,877,931 円 児童用図書 1,581,438 円						
評価の内容						評価
(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、昨年度に導入した新たな学校経営予算制度により、より各学校の実状に応じた環境改善、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。 (2)国際理解教育協力員により、5年生・6年生の外国語活動に加え、1年生から4年生までの外国語活動を行い、児童の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。						C

事業番号		15									
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費						
事業名		継続	中学校管理運営事業			主管課	教育委員会 学校教育課				
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち							
		基本施策		地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる							
		単位施策		子どもを支える教育環境の充実							
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）		27年度		26年度	
予算額		51,333,000		56,123,000		国 費		0		0	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		47,300,008		51,436,945		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		983,000		1,358,020	
執行率（％）		92.1		91.7		一般財源		46,317,008		50,078,925	
80%以下の理由						その他の内訳（27年度） 中学校共済掛金保護者負担金 524,400円 中学校施設利用料 458,600円					
事業コスト				事業費		人件費（ 0.30 人 役 ）			計		
決 算 額				47,300 千円		2,231 千円			49,531 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）				1,187 円		56 円			1,243 円		
生徒1人当たり（ 1,244 人 ）				38,023 円		1,793 円			39,816 円		
事業の目的および内容											
(1)市内6中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、子どもたちが健やかに学校生活を過ごせるよう生徒・教職員の健康管理を行います。 (2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。											
事業の実績		※中学校生徒数 1,244人（平成27年5月1日現在・・・学校基本調査基準日）									
(1)一般管理 中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。 ①学校評議員報酬（30人） 290,000 円 ②光熱水費 24,429,067 円 ③通信運搬費 1,796,946 円 ④葉刈り、剪定などの委託料 556,636 円 ⑤事務機器使用料 1,111,402 円 ⑥学校用務員賃金 5,358,200 円 （正規用務員の配置のない柏原中、伊吹山中、河南中、双葉中に配置） ⑦臨時事務職員賃金（東草野中に配置） 1,666,800 円											
(2)健康管理 中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒、教職員の健康管理を行いました。 ①生徒・教職員健康診断業務委託 3,615,883 円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 2,225,577 円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,168,710 円 ④結核、心臓精密検査 98,648 円 ⑤飲料水検査（年1回） 55,404 円											
事業の成果											評価
(1)各学校施設、整備の適切な管理運営に努めました。 (2)生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を生徒、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。 (3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。 また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校運営を行うことができました。											C

事業番号		16	
款	10 教育費	項	3 中学校費
		目	2 教育振興費
事業名	継続	中学校教育振興事業	
		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち	
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる	
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実	
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）
予算額	45,370,000	44,495,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	43,855,823	43,294,581	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率（％）	96.7	97.3	一般財源
80%以下の理由	その他の内訳（27年度）		
事業コスト		事業費	人件費（ 1.02 人 役 ）
決 算 額		43,856 千円	7,585 千円
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		1,100 円	190 円
生徒1人当たり（ 1,244 人 ）		35,254 円	6,097 円
事業の目的および内容			
(1)市内6中学校の生徒に対して、地域人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動等の様々な体験活動、部活動の公式大会参加に対して補助等を行い、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。 (2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を目指して、より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。			
事業の実績			
(1)修学旅行、校外活動および部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金、生徒派遣補助金 7,949,000 円 (2)市内の中学校に外国語指導助手（4人）を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど英語学習の推進を図りました。 外国語指導助手配置事業 17,767,173 円 (3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 国庫補助を受け理科備品の充実を図りました。 （理科備品の全国平均充足率30.4％ 米原市立小学校平均充足率27.9％） 理科教材備品 4,386,162 円 教育振興備品 1,760,579 円 (4)各学校の教育目標を達成するために学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。 授業力向上を目的とした書画カメラ・電子黒板機能付きプロジェクター等ICT機器の導入等、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,887,004 円 (5)各中学校教育振興費 総合学習、校内研究会など講師謝礼 94,800 円 消耗品費（教材プリント用印刷用紙等） 6,828,765 円 生徒用図書 1,225,607 円 (6)その他主な経費 自尊感情・学びの礎育成プロジェクト 200,000 円（地域ぐるみ人権教育推進 米原・河南学区） 中学2年生職場体験活動キャリア教育経費 581,841 円			
評価の内容			評価
(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、昨年度に導入した学校経営予算制度により、より各学校の実状に応じた環境改善、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。 (2)外国語指導助手により、生徒の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。			C

事業番号		17				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	社会教育総務管理事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
		単位施策	学びを活用できる環境づくりの推進			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	441,000	466,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	366,408	328,721	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	83.1	70.5	一般財源	366,408	328,721	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費	人件費（ 0.53 人役）	計		
決 算 額		366 千円	3,941 千円	4,307 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		9 円	99 円	108 円		
事業の目的および内容						
(1)社会教育行政に対して専門家および市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。 (2)社会教育関係の研究会、団体等の研修に参加することで職員等の資質向上に努めます。 (3)家庭の教育力を向上させるため、家庭教育フォーラムの開催、家庭教育リーフレット、広報まいばら、伊吹山テレビなどを活用し、市全域に啓発を行います。						
事業の実績						
(1)社会教育委員会議 ①定例会議の開催（5回） 家庭の教育力の向上をテーマに開催し、ワークショップ形式で議論を深めました。 主な議論内容 ⇒家庭教育リーフレットの改訂について ⇒出前講座「家庭の教育力」について ⇒平成27年度 家庭教育フォーラムの企画について ②本市委員と他市委員の意見交換会や共同研修を行いました。 (2)家庭の教育力向上事業 家庭教育フォーラムの開催 「家庭において大切にしたいこと」をテーマとして社会教育委員、学校行政関係者をパネラーとし、パネルディスカッションを行いました。 開催日：平成27年4月25日（土） 場所：市民交流プラザ 健康ルーム 参加人数：80人参加 ※参加者アンケートより：家庭教育フォーラムの満足度 80.8点						
評価の内容					評価	
(1)社会教育委員会議において、次年度の家庭教育フォーラムや家庭教育リーフレットの改訂など、家庭の教育力向上について、より効果的に啓発、浸透させるにはどうすればよいかを議論し、実行しました。 (2)重要施策として位置付けた「家庭の教育力向上事業」について、家庭教育フォーラムを実施することで子育て世代の市民に向けて啓発を行うことができました。					B	

事業番号		18			
款	10 教育費		項	5 社会教育費	
目	1 社会教育総務費				
事業名	継続	生涯学習のまちづくり事業		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち		
	基本施策		人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる		
	単位施策		学びを活用できる環境づくりの推進		
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額	16,893,000	13,496,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	15,730,729	12,696,993	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	926,820	988,756
執行率（％）	93.1	94.1	一般財源	14,803,909	11,708,237
80%以下の理由			その他の内訳（27年度） 大原生涯学習センター管理経費負担金 926,820円		
事業コスト		事業費	人件費（ 0.48 人 役 ）	計	
決 算 額		15,731 千円	3,569 千円	19,300 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		395 円	90 円	485 円	
事業の目的および内容					
(1)市民の生涯学習活動を支援するとともに、学んだ成果を生かして活動できるような場の提供を行い、地域人材を探しておられる市民と講師をつなぐコーディネーターの役割を果たします。 (2)市民の生涯学習活動拠点である生涯学習センターの維持管理、利用者対応を行います。					
事業の実績					
(1)出前講座事業 市民の依頼に応じて市の職員等が講師となり、市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報をお届けしました。 利用実績：269回（平成26年度 246回 対前年度増減率+9.3%） (2)まなびサポーター事業 90,000円 学んだ成果を生かし、市民が指導者（支援者）としてまちづくりや人づくりに取り組んでいただく制度の運用を行いました。 まなびサポーター登録総数：135人 利用実績：93回（平成26年度 12回 対前年度増減率+675%） ※平成27年度は、まなびサポーターに音楽の授業を支援していただいたことにより、平成26年度と比べて利用実績が増えました。 (3)米原市女性の会活動事業補助 348,341円 女性の社会活動への参加の推進を図るため、米原市女性の会に対し、事業費の補助を行いました。 【女性の会の今年度の主な活動】 グリーンカーテン推進事業としてゴーヤの苗を配布し、省エネ活動の推進に努めました。 障がい者の婚活支援事業として、「この出会いにときめきParty」を開催し、二組のカップルが出来ました。参加者からは、今後も継続して活動を進めてほしいという声がありました。 春のつどいでは、講師として手話シンガーソングライターを招き、地域の方々と一緒に手話を学び交流を行いました。 (4)大原生涯学習センター 2,026,522円 維持管理および施設利用者対応業務を行いました。 利用人数：1,689人（平成26年度 1,857人 対前年度増減率▲9.0%） (5)山東生涯学習センター 指定管理委託料：7,551,000円 指定管理者：タウンルッチ 利用人数：5,635人（平成26年度 7,184人 対前年度増減率▲21.6%） 事業：貸館業務、施設管理運営 施設の貸館業務や施設の適正な維持管理ができました。 (6)柏原生涯学習センター 指定管理委託料：2,075,000円 指定管理者：米原市柏原区 利用人数：4,837人（平成26年度 6,024人 対前年度増減率▲19.7%） 事業：貸館業務、施設管理運営 施設の貸館業務や施設の適正な維持管理ができました。 施設を柏原区へ譲与しました。 (7)施設改修工事 柏原生涯学習センター調理室改修工事 2,974,320円					
評価の内容					評価
(1)出前講座・まなびサポーター事業を展開し、日常生活で役立つ知識や技能を提供することができました。また、学んだことを持ち帰っていただき、他の方にも伝えることで学びのサイクルを形成することができました。 (2)生涯学習センターにおいては、地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として、学びの機会を提供し、地域住民のニーズに合った生涯学習事業を展開することができました。 (3)柏原生涯学習センターを地域の行事や集会で活用して、地域情報の発信や交流の場としていただくため、柏原区へ譲与しました。					C

事業番号		19				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名		継続	人権教育推進事業		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	一人ひとりが尊重され平和を大切にするまちをつくる			
		単位施策	多様な学習機会の充実			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		1,643,000	1,674,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		1,549,168	1,476,230	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	248,000	245,333
執行率（％）		94.3	88.2	一般財源	1,301,168	1,230,897
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 人権教育推進協議会等事業費助成金 248,000円		
事業コスト		事業費		人件費（ 1.28 人 役 ）	計	
決 算 額		1,549 千円		9,518 千円	11,067 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		39 円		239 円	278 円	
事業の目的および内容						
(1)人権尊重のまちづくりのため、知識や感覚を磨き、それぞれの立場で活躍いただける人材を育成することをねらいとして、米原市人権教育推進協議会と連携を取りながら、各種研修会、人権講座を実施します。 (2)各自治会の人権教育推進員を中心に、主体的な学習の場として企画、運営していただくハートフル・フォーラムの開催を推進します。						
事業の実績						
(1)地域人権リーダー研修会 ①ハートフル・フォーラムの説明会を兼ねて平成27年度のテーマ「地域のつながりと家族」に沿った内容の研修会を開催しました。 開催日：平成27年6月25日（木） 場所：市民交流プラザ 参加人数：241人（平成26年度 227人） 内容：平成27年度テーマに関する人権啓発教材視聴、ハートフル・フォーラム事例発表 (2)米原市人権教育推進協議会活動事業費補助および事業推進を行いました。 ①活動事業費に対する補助 1,481,379円 ②きらめき人権講座（4回シリーズ）の開催						
開催日		テーマ		講師	場所	参加人数
7月17日(金)		「汗をかき 話し合いのネットワーク」		白井 俊一氏	米原公民館	台風のため中止
8月27日(木)		「男性の子育てとワークライフバランス～職場・地域・家庭が変わる？～」		小沢 修司氏	人権総合センター	50人
9月25日(金)		「差別と向き合うマンガたち～歴史叙述と漫画を結びつける「差異の思考」～」		田中 聡氏	人権総合センター	56人
10月21日(水)		「高齢者はなぜ大切ですか～喪失の危機からのやすらぎ～」		譲 西賢氏	人権総合センター	50人
③ハートフル・フォーラムの自治会での開催 平成27年度推進テーマ 「地域のつながりと家族」 ハートフル・フォーラムが各自治会で開催されました。 86自治会で開催（開催率：80.4％） 2,563人（平成26年度 87自治会、2,806人） ④人権を考えるつどい（人権政策課と共催） 「人を愛し、自然を愛し、平和を愛する」講師：山本コウタロー氏 開催日：平成27年11月8日（日）場所：米原公民館 参加人数：310人(平成26年度 350人)						
(3)同和教育推進本部研修会 同和問題に対する正しい理解を図り、部落差別解消に向けた人材を育成することを目的に研修会を実施しました。 「今後の同和行政の在り方を探る」講師：丸本 千悟氏 開催日：平成28年2月22日（月）場所：米原庁舎 参加人数：32人(平成26年度 46人)						
評価の内容						評価
(1)地域人権リーダー研修会やきらめき人権講座を開催し、多くの方に参加していただき、人権意識・感覚の向上を図ることができました。 (2)主体的な学習の場であるハートフル・フォーラムを推進し、市民に人権学習活動の機会を提供することができました。						C

事業番号		20									
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費						
事業名		継続	地域人材育成事業			主管課	教育委員会 生涯学習課				
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち							
		基本施策		人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる							
		単位施策		学びの場づくりの推進							
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）		27年度		26年度	
予算額		970,000		945,000		国 費		0		0	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		789,544		871,850		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		290,000		154,000	
執行率（％）		81.4		92.3		一般財源		499,544		717,850	
80%以下の理由						その他の内訳（27年度） 社会教育事業関係受講料 290,000円					
事業コスト				事業費		人件費（ 0.55 人役）			計		
決 算 額				790 千円		4,090 千円			4,880 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人）				20 円		103 円			123 円		
学生1人当たり（ 29 人）				27,241 円		141,034 円			168,275 円		
事業の目的および内容											
市民の自発的に学び続ける意欲に応え、“地域に根ざす。幸せになる。”まちづくり人材を育成するため「ルッチまちづくり大学」を開学します。また、卒業生をメンバーとした「ルッチみらい会議」を中心に市民主導型の運営へ移行して、市民立大学を志向した運営を行います。											
事業の実績											
(1)ルッチ大学（7期生）【10回開講：9月卒業】 ①【まちづくりグループ】「舞って♪待って！まいばら」を開催 人と人をつなぎ、米原駅前を活性化させることを目的として、「舞う」をテーマにしたイベントを開催しました。 ②【地元学グループ】「ひょうたん山 むかし話」を編さん 地域に眠っている資源を掘り起こし、地域活性化につなげる手法を考えることを目的に実施しました。											
(2)ルッチ大学院（6期生）【8回開講:9月卒業】 ①まちかど遺産調査の実施 地域のものがたりを語るに欠かせないもの、人々の日々の営みを記念するもの、地域とそこに暮らす人々への興味や想像力をかきたてるような身近な事物、資源のことを、「まちかど遺産」と名付け、フィールドワークを行い、卒業報告をまとめました。 ②実践活動の実施 放課後児童クラブへの出前事業、市内イベントでのブース設置等、実践活動を積極的行いました。											
(3)ルッチまちづくり大学（8期生）の開学【14回開講：10月開学】 ①大学と大学院を統合し、2年制から3年制に改編【24人入学】しました。 ②「共通講座」から「まちづくりコース」「地元学コース」に分かれる2コース制を導入しました。 ③卒業生をメンバーとした企画会議「ルッチみらい会議」を中枢とした運営体制に移行しました。											
(4)公開講座の開催 加藤文俊 氏、木村健世 氏、木村亜維子 氏がプロデュースする「カレーキャラバン」を招へいし、これからの暮らし方・生き方のヒントを得るコミュニケーションを「味わう」場所づくりを提供しました。											
評価の内容										評価	
(1)大学（7期生）・大学院（6期生）は、自分自身をまちの一員であると自覚し、住みよいまちづくりのための取組に関わろうとする意識で、各自の事例研究を実施しました。全体的に「まちへの誇りや 愛着形成」という課題に各自の方法で取り組んだと評価できます。 また、活動を通じて「一生モノ」の仲間づくりができました。 (2)卒業生を中心とした市民主導型の運営体制が確立できました。 (3)公開講座（カレーキャラバン）において「公・共・私」の意味を考え、人の結び付きや協力の喜びを体感する場づくりができました。										A	

事業番号		21				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名		継続	文化のまちづくり事業		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる			
		単位施策	市民文化活動への支援			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		4,802,000	4,317,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		4,258,190	4,047,994	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	371,000	230,500
執行率（％）		88.7	93.8	一般財源	3,887,190	3,817,494
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 市展出品参加料 139,000円 下倉祺世基金繰入金 232,000円		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.75 人役）	計	
決 算 額		4,258 千円		5,577 千円	9,835 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		107 円		140 円	247 円	
事業の目的および内容						
(1)芸術を創造し、鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して、米原市芸術展覧会を開催します。 (2)市民の芸術文化の振興を図るため、米原市文化協会の活動事業に対する支援を行います。						
事業の実績						
(1)米原市芸術展覧会の開催 1,112,542円 ①芸術展覧会運営委員会の開催 ②美術部門展覧会 会期：10月10日(土)～18日(日) 場所：市民交流プラザ 出品数：絵画部門 86点、彫刻・工芸部門 33点 書部門 26点、写真部門 115点、 合計 260点（うち市内在住者出品数 90点）（平成26年度 250点） ③音楽部門最終審査発表会 開催日：12月6日(日) 場所：市民交流プラザ 出品数：121 点（うち市内在住者出品数 105点）（平成26年度 96点） (2)音楽でまちづくり事業委託業務 699,840円 ①作詞・作曲教室の実施 大原小学校6年生2クラス、春照小学校6年生1クラスにて実施 ②楽譜集の作成、芸術展覧会音楽部門に出品 大原小学校61作品、春照小学校36作品 (3)米原市文化協会事業補助金 2,445,808円 ①米原市文化協会 会員数：1,219人、団体数：94団体（平成27年4月1日現在） ②各支部の支援、部会交流活動 4支部の活動に対して補助を行い、部会の交流促進のため芸能発表会と作品展を開催しました。 ③機関誌「天ノ川」の発行 機関誌を全戸配布し、文化協会所属団体の活動内容を紹介しました。						
評価の内容						評価
(1)芸術展覧会では全体で381点の出品があり、前年度より1割増の出品数となりました。芸術展覧会が定着化してきており、市民の創作活動の活性化を促進することができました。 (2)文化協会では、各地域における文化祭の開催や部会間交流事業などを行い、文化振興に貢献することができました。						C

事業番号		22					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費		
事業名		継続	文化芸術振興施設管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる				
		単位施策	文化芸術の振興				
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度
予算額		60,132,000	71,775,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		56,798,731	64,842,214	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		9,209,505	10,569,520
執行率（％）		94.5	90.3	一般財源		47,589,226	54,272,694
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）			
				施設等使用料 2,901,700円 ラウンジ共益費 40,000円 施設管理経費負担金 3,810,953円 自主事業入場料 1,573,106円 その他諸収入 883,746円			
事業コスト			事業費	人件費（ 2.30 人 役 ）		計	
決 算 額			56,799 千円	17,103 千円		73,902 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）			1,425 円	429 円		1,854 円	
事業の目的および内容							
(1)市民交流プラザ(ルッチプラザ)は市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。 (2)ベルホール310は県内屈指の音楽専門ホールであり、文化情報の発信拠点として重要な地域資源であるという認識の下、地域の音楽文化の向上を目指し、ブラスクリニック、ピアノコンクールや自主公演などを企画、実施します。 (3)市民交流プラザの施設や設備の適切な維持管理に努め、経年劣化に伴う設備の改修や修繕を行い、利用者の利便性の向上を図ります。							
事業の実績							
市民交流プラザ（ルッチプラザ）の管理運営および自主企画事業を実施しました。							
(1)管理運営							
①臨時職員賃金（3人分） 4,680,200 円 ②燃料費、光熱水費（電気、ガス、水道、下水道代） 22,351,226 円 ③管理委託料（清掃、機械設備保守点検、夜間管理代行） 10,308,649 円 ④公演委託料 8,153,678 円 ⑤修繕費(屋根付駐車場火災感知器、非常用放送設備など) 4,337,606 円 ⑥その他（印刷、通信運搬費、使用料、補助金など） 4,207,990 円							
(2)自主事業（公演事業）							
①年間23回の事業実施（前年度 23回）入場者数：3,395人（前年度 4,948人） ②入場料収入 1,573,106円（前年度 3,663,397円）市民に広く芸術文化に親しんでもらうため、チケット料金の金額を抑えた事業の割合を増やしたため、収入が減少しています。）							
No.	開催日	イベント名					入場者数
1	4/5(日)	第29回 りれーピアノ発表会					117 人
2	7/5(日)	スギテツクラシックコンサート					170 人
3	7/24(金),25(土)	体験教室アウトリーチ(4回実施)(公共ホール音楽活性化事業)					191 人
4	7/26(日)	ハーブ&チェロコンサート					105 人
5	8/1(土)	じゃんぐるっち					480 人
6	8/9(日)	第30回 りれーピアノ発表会					88 人
7	8/19(水),20(木)	ブラスクリニック&コンサート（成果発表）					153 人
8	9/6(日)	正倉院の響き					115 人
9	10/4(日)	雅楽演奏会					88 人

事業の実績

No.	開催日	イベント名	入場者数
10	10/25(日)	第5回ルッチプラザピアノコンクール1次審査	120人
11	11/22(日)	第5回ルッチプラザピアノコンクール本選	90人
12	11/23(月・祝)	金子三勇士によるピアノコンクール優秀賞受賞者公開レッスン	30人
13	12/19(土)	奥華子コンサートツアー2015(共催)	351人
14	1/23(土)	金子三勇士ピアノコンサート共演者公開リハーサル	50人
15	1/24(日)	金子三勇士ピアノコンサート	150人
16	1/31(日)	ひこね第九管楽アンサンブルコンサート(共催)	68人
17	2/14(日)	ルッチでチャチャチャ パーカッションコンサート	120人
18	2/14(日)	バレンタインコンサート(ホールサポーター企画事業)	77人
19	2/28(日)	バケモノの子映画上映	202人
20	3/13(日)	みずき舞 永井みゆきコンサート	176人
21	3/20(日)	京都フィルハーモニー室内楽コンサート(共催)	32人
22	3/26(土)	きんせい寄席(共催)	347人
23	3/29(火)	おかあさんたちの発表会	75人

(3)貸館事業

平成27年度ホール利用件数(貸館) 159回 利用者数(貸館) 14,462人
(平成26年度ホール利用件数(貸館) 107回 利用者数(貸館) 17,296人)

(4)平成27年度ルッチプラザ・ベルホール310稼働率

	開館 日数	ホール		スタジオを含む	
		稼働日数	稼働率	稼働日数	稼働率
4月	26	10	38.5%	4	15.4%
5月	27	11	40.7%	6	22.2%
6月	25	15	60.0%	9	36.0%
7月	27	17	63.0%	5	18.5%
8月	26	18	69.2%	14	53.8%
9月	26	12	46.2%	11	42.3%
10月	27	11	40.7%	16	59.3%
11月	25	19	76.0%	19	76.0%
12月	24	13	54.2%	17	70.8%
1月	24	10	41.7%	6	25.0%
2月	24	19	79.2%	12	50.0%
3月	27	17	63.0%	16	59.3%
合計	308	172	55.8%	135	43.8%
平成26年度	308	140	45.5%	196	63.6%

(5)平成27年度ベルホール310サポーターミーティング活動実績

①自主事業公演の運営協力
②サポーター企画、バレンタインコンサートの実施
③「じゃんぐるっち」の企画運営協力。8月1日に全館タイアップの夏祭りイベントとして実施

(6)職場体験の受入

平成27年6月29日から7月3日まで、大東中学校
2年生9人を受け入れ、照明や音響の仕込等を
体験する機会を提供しました。

(7)「じゃんぐるっち」開催

複合施設であるルッチプラザの事業として夏祭り
「じゃんぐるっち」を実施しました。警察や消防署
の協力を得て地震体験や救急体験コーナーの設置を
はじめ、子ども向けのゆるキャラショー、健康推進
員の手作りスイーツ配布、映画上映、模擬店、デイ
サービスセンターのお楽しみコーナーなどイベント
を開催し、市内の親子を中心に夏休みのひとときを
過ごす場を提供しました。



ブラスクリニックの成果発表会

評価の内容	評価
(1)共催事業を拡充したことで市予算の負担額を抑えて、前年度と同回数の年間23回の公演事業を行いました。例年定期的に実施している事業が定着してきたことによって、利用者に広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができました。 また、りれーピアノやピアノコンクールの事業継続の結果として、ピアノの練習による貸館件数が大幅に増加しました。 (2)中学生の職場体験の受入れを行い、ホールに興味を持ってもらうことができました。 (3)運営に当たっては、ベルホール310サポーターミーティング組織とともに協働して実施することができました。ルッチプラザの夏祭り「じゃんぐるっち」では、サポーターミーティング以外にも、デイサービスセンター、健康推進員、ルッチ大学生、文化協会所属団体、警察署、消防署、税務署など、各方面からの参画を得て開催することができ、多くの親子連れや地域の子もたちが来館して、市民交流の場を創出することができました。 (4)施設の修繕を計画的に実施し、屋根付駐車場の火災感知器の全面交換、ボイラー配管の水漏れや、空調設備の修繕を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。	B

事業番号		23				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
		単位施策	学びの場づくりの推進			
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度	
予算額	74,558,000	55,390,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	71,773,789	55,236,062	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0	
執行率（％）	96.3	99.7	一般財源	71,773,789	55,236,062	
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）			
事業コスト		事業費	人件費（ 0.25 人 役 ）	計		
決 算 額		71,774 千円	1,859 千円	73,633 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		1,800 円	47 円	1,847 円		
事業の目的および内容						
市民の生涯学習やサークル活動を支援するために、研修室、図書室、薬草風呂、薬草園、ジョイホールなどを備えた施設「伊吹薬草の里文化センター」の管理運営について、市民がより利用しやすい施設運営を目指し、指定管理者による施設の運営を行います。						
事業の実績						
(1)指定管理者により、施設の管理および各種事業の展開を行いました。 伊吹薬草の里文化センター指定管理委託料 50,424,000円 指定管理者：公益財団法人 伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 利用者数：43,968人（平成26年度 46,604人 対前年度増減率▲5.7%） うち ホール：6,535人（平成26年度 6,024人 対前年度増減率＋8.5%） 公民館講座：25種類 延べ109回開講 ホール事業：コンサート事業、子どもだけの映画会 ほか 薬草フェスタ、秋の伊吹文化祭、キッズフェス、息吹の奏夏まつり、伊吹山音楽祭 ほか 薬草風呂、薬草園、いぶき図書室の管理運営 薬草風呂利用者：32,727人（平成26年度 36,018人 対前年度増減率▲9.1%）						
(2)施設設備修繕 1,010,814円 設備の不具合箇所を修繕しました。 空調設備修繕 886,680円 ほか						
(3)改修工事設計等 防水工事監理業務 291,600円 特殊建築物定期調査業務 313,200円						
(4)施設管理用備品購入 乗用芝刈機 726,736円						
(5)施設改修工事 18,900,000円 施設の改修工事を行いました。 防水工事 14,319,720円 高圧受電設備改修工事 3,351,240円 非常用自家発電設備蓄電池交換 691,200円 電話設備改修工事 537,840円						
評価の内容					評価	
(1)公民館をはじめ、ホール、薬草風呂、いぶき図書室、薬草園、芝生広場などを有した複合施設として、地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業を含め、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすく幅広い事業を実施することができました。 (2)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。					C	

事業番号		24				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	
事業名		継続	成人式開催事業		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
		単位施策	地域で学ぶ環境づくりの推進			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		789,000	768,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		706,833	716,882	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	0	0
執行率（％）		89.6	93.3	一般財源	706,833	716,882
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.25 人役）	計	
決 算 額		707 千円		1,859 千円	2,566 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人）		18 円		47 円	65 円	
対象者1当たり（ 457 人）		1,547 円		4,068 円	5,615 円	
事業の目的および内容						
新成人の明るい未来と今後の地域貢献を願い、誓い合う機会として成人式を開催します。						
事業の実績						
新成人を家族や恩師など関係者が一堂に会して祝福する場として、また今後の人生への希望や決意とともに、郷土愛や社会貢献について認識してもらう場として、成人式を開催しました。 新成人者の有志により実行委員会を組織し、企画運営を行いました。 実行委員会の開催 3回開催 実行委員の人数 15人 成人式の開催 平成28年1月10日（日） 県立文化産業交流会館 対象者数：457人（平成26年度 483人 対前年度増減率▲5.4％） 参加人数：378人（平成26年度 392人 対前年度増減率▲3.6％） 参加率：82.7％（平成26年度 81.2％ 対前年度増減率＋1.5％）						
式典内容						
1 オープニングアトラクション 2 市長式辞 3 来賓祝辞 4 二十歳のメッセージ（新成人代表） 5 思い出のアルバム上映 6 記念写真撮影						
評価の内容						評価
新成人者の有志による実行委員会での成人式の企画を行い、当日も実行委員が主になって成人式を開催しました。						C

事業番号		25									
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 公民館費						
事業名		継続	公民館管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課				
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち							
		基本施策		人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる							
		単位施策		地域で学ぶ環境づくりの推進							
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）		27年度		26年度	
予算額		99,866,000		112,607,000		国 費		0		0	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		98,917,113		108,422,900		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		0		0	
執行率（％）		99.0		96.3		一般財源		98,917,113		108,422,900	
80%以下の理由				その他の内訳（27年度）							
事業コスト				事業費		人件費（ 0.41 人 役 ）			計		
決 算 額				98,917 千円		3,049 千円			101,966 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）				2,481 円		76 円			2,557 円		
事業の目的および内容											
(1)公民館では、地域住民の身近な学びの場として、生涯を通じて学ぶ意欲を持ち、生きがいと潤いのある暮らしを送っていただくために各種事業を行い、地域の活性化を図っています。 (2)指定管理者制度を導入し、地域性を生かした使いやすい施設とするため、地域に密着した団体に管理運営を委託します。											
事業の実績											
(1)指定管理者により、各施設の管理および各種事業の展開を行いました。 ①米原公民館 指定管理委託料 27,127,000円 指定管理者：NPO法人F I E L D 利用者数：48,806人（平成26年度 49,268人 対前年度増減率▲0.9%） 事業：親子広場、米原えんげkids、米原一日遠足、パッチワーク教室、公民館まつり ほか 【実績】親子で参加できる講座などを開催するとともに、ロビーで講座で作成した作品の発表の場を提供するなど、子どもたちや利用者との交流を深める運営がされました。 ②近江公民館 指定管理委託料 31,745,000円 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 利用者数：39,315人（平成26年度 38,830人 対前年度増減率＋1.2%） 事業：キッズアート、粘土フラワー、アロハフラダンス体験、農の匠料理教室 ほか 【実績】子どもを対象とした事業や伝統文化の継承など地域に根ざした特色のある事業を展開するとともに、利用者のニーズに応える講座を開催するなど、柔軟な運営がされました。 ③山東公民館 指定管理委託料 27,950,000円 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ 利用者数：21,828人（平成26年度 21,874人 対前年度増減率 ▲0.2%） 事業：子ども将棋教室、戦国山城ウォーキング、パソコン講座、公民館まつり ほか 【実績】子どもから高齢者まで、参加しやすい様々な講座を開講するとともに、公民館利用団体の学習の成果発表の場を設けるなど、地域学習の交流拠点となる運営がされました。											
(2)施設設備修繕 1,784,700円 施設や設備等の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設としました。 米原公民館 空調設備修繕 299,160円 近江公民館 自動ドア修繕 359,100円 ほか											
(3)施設改修工事 9,703,800円 施設の改修工事を行いました。 山東公民館 駐車場区画線工事 205,200円 山東公民館 高圧受電設備改修工事 291,600円 米原公民館 舞台吊物設備改修工事 8,337,600円 米原公民館 ガス管布設替工事 869,400円											
評価の内容										評価	
(1)地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として、学びの機会を提供し、利用者に喜んでいただける事業を実施することが出来ました。											
(2)指定管理者による施設管理運営により、効率的で効果的な運営ができました。 (3)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。											
										C	

事業番号		26				
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	2 体育施設費	
事業名		継続	体育施設管理経費		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
		基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる			
		単位施策	スポーツ環境の整備			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		64,367,000	94,062,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		63,711,242	93,525,462	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	2,387,800	26,250
執行率（％）		99.0	99.4	一般財源	61,323,442	93,499,212
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 体育施設使用料（ウッドピア） 26,800円 新最終処分場多目的広場整備工事負担金 2,361,000円		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.75 人 役 ）	計	
決 算 額		63,711 千円		5,577 千円	69,288 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		1,598 円		140 円	1,738 円	
事業の目的および内容						
(1)市民の心身の健全な発達と文化、体育、スポーツの普及および振興を図るため、市内体育施設において、市民が身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。 (2)市民が安全で安心して利用できるよう市内体育施設の修繕を行います。						
事業の実績						
(1)指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。 ①市民体育館、山東グラウンド：NPO法人カモンスポーツクラブ 3,411,000 円 体育館 9,666人（平成26年度 11,243人 対前年度増減率▲14.0%） グラウンド 13,763人（平成26年度 14,306人 対前年度増減率▲3.8%） ②伊吹B＆G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、テニスコート： 15,272,000 円 （公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 B＆Gプール 3,310人（平成26年度 3,227人 対前年度増減率＋2.6%） 第1 Gグラウンド 7,737人（平成26年度 8,147人 対前年度増減率▲5.0%） 第2 Gグラウンド 11,883人（平成26年度 10,879人 対前年度増減率＋9.2%） テニスコート(新規) 1,527人 ③米原野球場、すぱーく米原：NPO法人MOSスポーツクラブ 5,006,000 円 米原野球場 3,793人（平成26年度 2,792人 対前年度増減率＋35.9%） すぱーく米原 11,953人（平成26年度 11,749人 対前年度増減率＋1.7%） ④近江グラウンド：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 3,590,000 円 近江グラウンド 4,237人（平成26年度 5,907人 対前年度増減率▲28.3%） ⑤山東B＆G海洋センター：(株)スポーツプラザ報徳 16,456,000 円 体育館 9,946人（平成26年度 8,642人 対前年度増減率＋15.1%） プール 30,627人（平成26年度 24,920人 対前年度増減率＋22.9%） ⑥双葉総合体育館：近江スポーツクラブ 10,900,000 円 体育館 13,575人（平成26年度 14,584人 対前年度増減率▲6.9%） (2)社会体育施設の維持管理のため、必要な業務を行いました。 ①施設維持管理委託料（河南中学校ナイター照明保安管理委託） 108,648 円 ②米原地域学校開放施設利用調整等業務委託料 1,750,000 円 ③土地借上料（近江グラウンド 2,295.39㎡） 1,200,000 円 ④光熱水費（河南中学校ナイター照明、ふたば広場電気代、上下水道代） 1,004,781 円 ⑤(仮称)番場多目的広場測量業務 2,360,880 円						
評価の内容						評価
(1) 指定管理者により体育施設の適切な維持管理が行われ、様々な市民ニーズに合ったスポーツの場の提供ができたことにより、市民相互の交流やスポーツ活動の拠点施設としての役割が果たせました。 (2) 番場地先における多目的広場の整備を進めるために現況の測量を行いました。						C

事業番号		27					
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	3 体育振興費		
事業名	継続	生涯スポーツ推進体制整備事業				主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる				
		単位施策	スポーツ振興のための支援				
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度		
予算額	31,688,000	94,062,000	国 費	660,430	0		
うち繰越	0	0	県 費	0	0		
決算額	30,330,902	93,525,462	市 債	0	0		
うち繰越	0	0	そ の 他	12,000	12,000		
執行率（％）	95.7	99.4	一般財源	29,658,472	93,513,462		
80%以下の理由			その他の内訳（27年度） 社会体育事業参加費 12,000円				
事業コスト		事業費	人件費（ 2.65 人役）	計			
決 算 額		30,331 千円	19,705 千円	50,036 千円			
市民1人当たり（ 39,864 人）		761 円	494 円	1,255 円			
事業の目的および内容							
(1)市民の健全なスポーツの推進を図るため、スポーツ推進委員によるニュースポーツの指導や地域でのスポーツ活動、出前講座の実施により健康増進を図ります。 (2)幅広い世代の市民が、いつでもどこでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、総合型地域スポーツクラブや体育協会をはじめ各種団体が開催する健康、体力づくりの活動やイベントへ支援を行います。 (3)平成36年の滋賀国体を見据え、市内の小中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招き、高度な技術の習得と選手との交流によりスポーツに親しむ機会づくりに取り組みます。 (4)スポーツ基本法に基づく米原市スポーツ推進計画を推進するため、具体的施策の実施、進捗管理、評価を行うため、実施計画を策定します。							
事業の実績							
(1)米原市スポーツ推進委員による地域でのスポーツ活動や市内スポーツイベントの企画、運営に活躍いただきました。また、スポーツ推進委員の資質向上、研さんのため各種研修会へ出席いただきました。 スポーツ推進委員報酬（委員数：31人） 1,178,000 円 【主な活動内容】 ①お気軽スポーツ体験（ニュースポーツ）4 地区 総参加者41人 ②出前講座 3 回実施 210人参加 ③夢高原かつとび伊吹の企画、運営、準備等 ④いきいき健康ウォークの企画・運営 ⑤全国、近畿、滋賀県スポーツ推進委員研修会への参加							
(2)市民のスポーツの推進を図るため、各スポーツ団体に補助金を交付し活動支援を行いました。 ①市体育協会（加盟団体数：18団体）市民大会12競技、総参加者1,187人 3,208,348 円 ②市スポーツ少年団（加盟数：19単位団、団員513人、指導者107人） 2,576,717 円 ③総合型地域スポーツクラブ（市内4クラブ） 2,000,000 円 ④（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 15,260,000 円							
名称		平成27年度		平成26年度			
		事業数	参加者（人）	事業数	参加者（人）		
いぶきスポーツクラブ		24	4,718	25	4,444		
カモンスポーツクラブ		29	6,133	20	6,804		
M O Sスポーツクラブ		22	4,902	16	3,963		
近江スポーツクラブ		17	4,117	21	4,316		
（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団		27	2,119	21	2,590		
⑤マイクリング・プロジェクト(サイクリングマップ作成) ※まいばら協働提案事業		400,000 円					
(3)米原市スポーツ推進計画に掲げる基本方針を推進するため、具体的な施策を実施し、進捗管理、事業評価を行うため、実施計画を策定しました。 米原市スポーツ推進審議会報酬(委員数：15人、年間2回開催) 95,000 円							

事業の実績	
(4)市民の健康寿命の延伸を目的にノルディックウォーキングを推進し、いきいき健康ウォーキングでの導入やスポーツ推進委員への研修活動に活用しました。 地方創生事業 備品購入費(ノルディックウォーキング用ポール等) 582,520 円 ノルディックウォーキング参加者30人 いきいき健康ウォーキング講師謝礼等 77,910円 (5)平成36年の滋賀県国体を見据え、市内の小中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招き、高度な技術の習得と選手の交流によりスポーツに親しむ機会づくりを行いました。 トップアスリート交流事業委託(NHKジュニア野球教室 講師：武田一浩氏、田口壮氏) (平成27年11月15日開催、参加者：市内中学校野球部、クラブチーム約70人) 200,000円 ジュニアホッケー選手育成事業(参加者：延べ1,107人、講師派遣：146人) 720,000円 (6)幼児を対象とした運動遊びや高齢者の元気塾などでスポーツアドバイザーによる指導、助言を行いました。 ①シニア元気塾等への派遣(72回、441人)(平成26年度 64回、542人) ②児童クラブ等への派遣(14回、244人)(平成26年度 20回、324人) ③出前講座等への派遣(20回、581人)(平成26年度 6回、283人) (7)市民の健全なスポーツの推進を図るため、国際競技大会や国内競技大会に出場する選手に対し、激励金を交付し活動を支援しました。 1,222,000 円 平成27年度実績 54件、224人(平成26年度 48件、245人) (8)米原市の特性を生かしたスポーツイベントの支援を行いました。 ①西日本小学生中学生6人制ホッケー選手権大会 100,000 円 (小学生40チーム、中学生47チーム)(平成26年度 小学生35チーム、中学生56チーム) ②いきいき健康ウォーク2015 100,000 円 (河南～蓮華寺 参加者153人)(平成26年度 柏原地先 参加者300人) ③夢高原かっつび伊吹2015 参加者1,326人、完走者1,062人 1,523,508 円 (平成26年度 参加者1,231人、完走者1,053人) (9)親子のふれあいと体力の向上を図るため、親子カヌー体験事業を米原市カヌー指導者会に委託し実施しました。 300,000 円 ①春の承水溝カヌー体験 平成27年5月31日(日)参加者86人、指導者6人 ②びわこマリンフェスタin米原 平成27年9月13日(日)参加者37人、スタッフ25人 ③市内各種団体のカヌー教室指導 実施団体：カモンスポーツクラブ、いぶきスポーツクラブ、MOSスポーツクラブ、SCプラザ 6回開催、115人参加 (10)平成36年の滋賀県国体におけるホッケー競技の開催を目指し、県と連携し、スポーツ施設の整備・充実に向け検討しました。また、県や市ホッケー協会とも連携し、国体が開催できるよう機運の高まりに努め、和歌山国体の視察を行うことで運営方法などを学びました。	
評価の内容	評価
(1)米原市スポーツ推進委員やスポーツアドバイザーによるニュースポーツの実技指導や運動遊び、出前講座など子どもから高齢者までがスポーツ活動に参加したことにより、健康増進、体力の維持向上が図れ、スポーツを通じて参加者同士のつながりや運動の楽しさを知っていただく機会となりました。 (2)生涯スポーツ社会の実現を目指した総合型地域スポーツクラブや市体育協会をはじめとするスポーツ関係団体が開催するスポーツ活動やイベントを支援することにより、幅広い世代の市民参加が得られました。 (3)「希望と元気あふれるスポーツコミュニティまいばら」を10年後の目指す将来像として掲げる米原市スポーツ推進計画を推進するため、実施計画を策定しました。毎年度の事務事業の評価・検討を行い、推進計画の実現を目指します。 (4)ノルディックウォーキング用ポールを100セット購入しました。今後、市民の運動能力の向上や健康寿命の延伸を目的とし、スポーツクラブや市イベント(スポーツ推進委員によるノルディックウォーキング教室・いきいき健康ウォーキング等)で活用します。また、各種団体のイベント時にポールを貸与し、スポーツツーリズムを推進します。	B

事業番号		28					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費		
事業名		継続	文化財保護事業			主管課	教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる				
		単位施策	文化遺産の保存活用				
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度
予算額		15,738,000	9,790,000	国 費		1,000,000	1,000,000
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		14,094,579	8,311,433	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		410,550	254,000
執行率（％）		89.6	84.9	一般財源		12,684,029	7,057,433
80%以下の理由					その他の内訳（27年度） 講座受講料等 324,200円 市史等有償頒布 86,350円		
事業コスト			事業費		人件費（ 1.80 人 役 ）		計
決 算 額			14,095 千円		13,385 千円		27,480 千円
市民1人当たり（ 39,864 人 ）			354 円		336 円		690 円
事業の目的および内容							
各種文化財調査、指定文化財の維持管理、修理などを実施することで、米原市に伝わる数多くの文化財の保護・活用を図ります。							
事業の実績							
(1) 萬留帳翻刻調査事業 2,352,180円 江戸時代から約300年間にわたり柏原宿などの様々な出来事を記録した貴重な資料「萬留帳」（よろずとめちょう）について、保存と活用を図るため翻刻調査を実施しました。 （66冊のうち37冊についてデータ入力済）							
(2) 文化財保護保存活動補助金 4,365,000円 まちの歴史・文化を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の維持管理、伝承、修理に対して事業費の一部を管理者に補助しました。（米原曳山保存会外24件）							
(単位：円)							
団体名			事業名			金額	
米原曳山祭松翁山保存会			松翁山保存会の曳山執行			1,000,000	
米原曳山祭保存会			曳山祭保存会の伝承活動			900,000	
青岸寺			国名勝青岸寺庭園保存修理			600,000	
			国名勝青岸寺庭園の保護活用			150,000	
朝日自治会			朝日豊年太鼓踊用具等修理			378,000	
			朝日豊年太鼓踊りの保存伝承活動			30,000	
伊吹山奉納太鼓踊保存会			伊吹山奉納太鼓踊り保存会の伝承活動			250,000	
鴨と螢の里づくりグループ			ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業			200,000	
上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部			上平寺跡参道整備事業			150,000	
弥高さつま会			弥高寺跡維持管理事業			150,000	
湿原を考える会			山室湿原整備、活用事業			95,000	
筑摩自治会			鍋冠祭保存会の伝承活動			80,000	
徳源院			国史跡他徳源院の保護活用			66,000	
大久保の史跡を守る会			市史跡長尾寺跡の保護活用			60,000	
観音寺			重要文化財観音寺の保護活用			60,000	
流星保存会			流星打上げの維持管理活動			35,000	
大野木自治会			大野木豊年太鼓踊保存会の伝承活動			30,000	
番場の歴史を知り明日を考える会			国史跡鎌刃城跡の保護活用			30,000	
長沢福田寺			国名勝福田寺庭園の保存活用			23,000	
井之口自治会			井之口太鼓踊保存会の伝承活動			20,000	
長沢自治会			福田寺公家奴振保存会の伝承活動			16,000	
柏原学区史跡保存会			国史跡北畠具行卿墓の保護活用			15,000	
志賀谷自治会			華の頭のおコナイの伝承活動			15,000	
来照寺			県名勝来照寺庭園の保護活動			12,000	

事業の実績	
(3)合併10周年記念事業 2,542,394円 ①米原が誇る山城を活用した地域との連携による「全国山城サミット」を開催しました。1,542,394円 開催日：平成27年10月24日(土) 内容：鎌刃城・上平寺城見学 開催日：平成27年10月25日(日) 内容：講演会、パネルディスカッション 参加者：2日間延べ約700人 ②火薬の製造から打上げまで行う米原にしかない「流星」を打ち上げ、文化財の伝承に寄与しました。 流星打上げ事業費補助金 1,000,000円 流星製造施設改修補助金 896,000円 開催日：平成27年11月23日(祝) 内容：流星打上げ10本 参加者：500人 (4)埋蔵文化財活用事業 2,018,167円 ①遺跡を活用したイベント 「鎌刃城まつり」 開催日：平成27年6月7日(日) 内容：鎌刃城見学、講演会 参加者：約200人 ②市内の遺跡や施設の紹介と、現地の散策を連動した啓発資料の作成・設置 「遺跡案内看板」 北条仲時墓外12か所 パンフレット「学校のまわりの宝物」 (伊吹小・大原小・米原小) 各2,000部 講演会「石塔造立」一曲谷石工と近江の石の文化財― 開催日：平成28年3月6日(日) 場所：伊吹薬草の里文化センター 参加者：約100人 (5)その他 1,920,838円 指定文化財マップ作製 799,200円 ほか	
評価の内容	評価
(1)萬留帳調査では、保存と活用に向けてのデータ保存や内容把握などの基礎資料の蓄積や、第1巻の報告書刊行に向けての校正ができました。 (2)米原市の歴史をひも解く上で貴重な指定文化財を次の世代に引き継ぐための維持管理、伝承、修理活動に対しての一助となりました。 (3)市内に残る多くの貴重な遺跡などを多くの市民に知っていただくとともに、地域住民と連携したイベントの開催や学校のまわりの遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果がありました。 (4)合併10周年を迎えた米原市の「これぞ米原」と言える地域資源の確立として、「全国山城サミット」を開催し、米原が誇る国史跡の山城をを生かしたまちづくりを全国に発信できました。また、火薬の製造から打上げまでを行う米原にしかない「流星」の打上げを行うことで一連の技術の伝承が図られ、後継者育成につなげることができました。	B

事業番号		30				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費	
事業名		継続	文化的景観保護推進事業		主管課	教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置づけ		政策	田舎都市が魅せるいやしのまち			
		基本施策	美しい風景を守り維持するまちをつくる			
		単位施策	地域の良さを活かした景観の形成			
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度
予算額		2,020,000	2,000,000	国 費	1,010,000	1,000,000
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		2,005,141	1,860,116	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	114,000	0
執行率（％）		99.3	93.0	一般財源	881,141	860,116
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 114,000円		
事業コスト		事業費		人件費（ 0.60 人 役 ）	計	
決 算 額		2,005 千円		4,462 千円	6,467 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		50 円		112 円	162 円	
事業の目的および内容						
国の「重要文化的景観」選定を受けた東草野地域の良好な景観保全と地域活性化を目指します。						
事業の実績						
国の「重要文化的景観」選定を受けた東草野地域の良好な景観保全と地域活性化を目指して、整備活用委員会の開催、来訪者を対象にしたイベント・啓発資料作成などを通して魅力の発信に努めました。						
(1)整備活用計画の策定に向けた委員会の開催（委員14人） ①整備活用計画委員会の開催 1回 開催日：平成28年3月16日（水）						
(2)活用事業 ①「顕教踊見学会」 開催日：平成27年8月15日(土) 参加者：11人 ②「石切り場跡&姉川発電所跡トレッキング」 開催日：平成27年12月6日(日) 参加者：21人 ③「甲津原ほかオコナイ見学会」 開催日：平成28年2月7日(日)、2月13日(土) 参加者：20人						
(3)啓発事業 ①写真誌作成「東草野のケシキ」 300部						
姉川発電所跡トレッキング風景						
評価の内容						評価
(1)「石切り場跡&姉川発電所跡トレッキング」などの現地見学会では、東草野の生業の歴史やオコナイを伝える地域の人々とのふれあいを通して、東草野の魅力を発信できました。						C
(2)東草野地域に伝わる古写真と近年撮影された景観や行事などを対比させ、東草野地域の自然や動植物の切り絵作家である早川氏の作品を取り入れながら、親しみを持って地域の歩みを知っていただく一助となりました。						

事業番号		31					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 図書館費		
事業名		継続	図書館管理運営事業			主管課	教育委員会 図書館
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる				
		単位施策	図書館整備の充実				
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度
予算額		61,131,000	56,725,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		429,000	428,000
決算額		58,173,352	54,750,254	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		82,365	105,146
執行率（％）		95.2	96.5	一般財源		57,661,987	54,217,108
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 利用者コピー収入 64,400円 公衆電話使用料 1,226円 本のリサイクル事業協力金 12,739円			
事業コスト			事業費	人件費（ 4.05 人 役 ）		計	
決 算 額			58,173 千円	30,116 千円		88,289 千円	
市民1人当たり（ 39,864 人 ）			1,459 円	755 円		2,214 円	
事業の目的および内容							
(1)市民一人一人が求める資料や情報、問題解決に役立つ資料を的確・迅速に提供します。また、管理運営面では、老朽化した図書館システムの更新を行い、システムの機能強化と業務効率の向上に努めるとともに施設の管理に伴う計画的な修繕を実施します。 (2)児童の読書環境の整備・充実を図るため、地域コーディネーターが学校と地域をつなぎ、市民ボランティアと子どもたちの読書活動を支援します。							
事業の実績							
(1)山東・近江図書館管理運営事業							
		山東図書館			近江図書館		
図書購入費		6,199,423円			5,299,903円		
臨時職員賃金		14,707,600円			8,764,400円		
貸出冊数		271,543冊(対前年度増減率▲7.1%)			185,653冊(対前年度増減率+1.4%)		
蔵書冊数(平成28年3月末現在)	図書	134,407冊			127,551冊		
	視聴覚資料	2,442点			—		
うち平成27年度購入分	図書	4,133冊			3,537冊		
	視聴覚資料	19点			—		
利用者数		4,982人(対前年度増減率▲5.2%)			3,434人(対前年度増減率▲2.7%)		
予約・リクエスト件数		11,564件			8,750件		
レファレンス件数		1,603件			1,692件		
その他		図書館協議会（5回）、蔵書点検実施(10月)、ブックスタート(毎月)、各種イベント、リサイクル開催など					
①システムの機能強化や利用者サービスの向上を図るため、図書館システムを更新しました。3,179,196円							
②近江図書館においては、空調設備の修繕を行いました。空調修繕費 4,575,478円							
(2)読書活動推進事業							
①ボランティアの協力により、小学校の全クラスに巡回文庫を実施しました。							
②コーディネーターが中心となり、地域と連携して学校図書館の整備や子どもたちの読書活動・学習活動を支援しました。平成27年度は伊吹小学校、河南小学校で学校図書館の大改造を行いました。							
評価の内容							評価
(1)システム更新を行ったことにより、機能強化と情報提供の拡大が図れ、市民一人一人が求める資料を提供することができました。また、両館で約457,000冊（対前年度増減率▲3.8%）を貸出しました。							C
(2)学校やボランティアとの協働で学校図書館の整備を行い、子どもたちの読書活動や学習活動を充実させることができました。また、ボランティアの育成を図り、交流や情報交換の場が持てました。							

事業番号		32					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費		
事業名	継続	はにわ館管理運営事業				主管課	教育委員会 図書館
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
		基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる				
		単位施策	学びの場づくりの推進				
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）	27年度	26年度		
予算額	902,000	860,000	国 費	0	0		
うち繰越	0	0	県 費	0	0		
決算額	664,120	745,028	市 債	0	0		
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0		
執行率（％）	73.6	86.6	一般財源	664,120	745,028		
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）				
主催および共催事業における広報費用（外注によるポスター）を予算計上していたが、行政放送や広報まいばらを活用したため。							
事業コスト		事業費	人件費（ 0.55 人 役 ）	計			
決 算 額		664 千円	4,090 千円	4,754 千円			
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		17 円	103 円	120 円			
事業の目的および内容							
(1)地域文化の情報発信拠点として、はにわ館の地域情報室を活用し、定期的に企画展示を開催します。 この企画に当たっては、市内外の人やモノ、施設と連携し、また協働しながら魅力ある展示に努めます。							
(2)図書館との一体的施設である強みを生かし、相互の連携が図れるような取組に努めます。 地域情報室との連携やかたりべホールを活用を図りながら、図書館利用者の増加にもつなげます。							
事業の実績							
(1)はにわミュージアム管理運営 米原市から出土した実物埴輪を常設展示しました。							
(2)地域情報室（主な経費：企画展示謝礼 18,000円） 「地域文化の情報発信」を基本テーマとして企画展示を開催しました。 ①米原市芸術展覧会10周年記念特別企画展 ②大野幸雄写真展 ③ふるさと米原の絵画展 ④東草野の山村景観 ⑤寺宝展 ⑥北村和恵書道展 ⑦米原アートスクール作品展 ⑧書を飾る ⑨写友ふたば写真展							
(3)かたりべホール（主な経費：A Vシステム保守点検業務委託料 346,500円） 地域子育て支援センターふたばっこに貸館を行いました。 ふたばっこの休業日にコンサートや親子絵本づくり教室など、近江図書館とのタイアップ事業を行いました。							
評価の内容						評価	
(1)埴輪による米原市のアピールに貢献するとともに、文化財保護の啓発に努めることができました。						C	
(2)各種企画展示を通じて米原市の地域情報を内外に発信し、文化振興の向上に貢献しました。							
(3)図書館とのタイアップ事業（かたりべホール事業や、図書のテーマ特集）を行い、一体的施設としてウィンウィンの関係性向上に寄与しました。							

事業番号		33						
款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	1 幼稚園管理費			
事業名		継続	幼稚園管理運営事業			主管課	こども未来部 保育幼稚園課	
総合計画上の 位置づけ		政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち					
		基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる					
		単位施策	子どもを支える教育環境の充実					
事業費（円）		27年度	26年度	財源内訳（円）		27年度	26年度	
予算額		39,941,000	78,759,000	国 費		0	1,582,000	
うち繰越		0	0	県 費		0	0	
決算額		35,232,592	74,446,663	市 債		0	0	
うち繰越		0	0	そ の 他		7,914,264	17,834,971	
執行率（％）		88.2	94.5	一般財源		27,318,328	55,029,692	
80%以下の理由				その他の内訳（27年度） 特定教育・保育施設利用共済掛金負担金 27,054円 特定教育・保育施設使用料ほか 5,290,410円 通園バス利用負担金ほか 2,433,000円 特定教育・保育施設広域入園負担金 163,800円				
事業コスト		事業費		人件費（ 1.27 人 役 ）		計		
決 算 額		35,233 千円		9,444 千円		44,677 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		884 円		237 円		1,121 円		
公立幼稚園利用児童1人当たり（ 167 人 ）		210,976 円		56,551 円		267,527 円		
事業の目的および内容								
(1)市内特定教育・保育施設（2幼稚園）の園児が安心して教育が受けられるよう適切に園の管理を行うとともに、園児・教職員の健康管理に努め、子どもたちが健やかに園生活を過ごせるようにします。 (2)保護者との連携の下に、就学前教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。 (3)山東幼稚園の園児を対象にスクールバスを運行し、通園時の安全性を確保します。 (4)18歳未満の兄弟姉妹の2人目以降の児童が入園した場合、保育料の無料化を実施します。								
事業の実績								
(1)市内特定教育・保育施設（公立幼稚園）利用児童数（平成28年3月31日現在）（単位：人）								
施設名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	うち市外の園児	利用定員	入園率（％）	前年比
山東幼稚園	25	23	32	80	0	110	72.7	▲3
米原幼稚園	26	33	28	87	0	90	96.7	▲1
合 計	51	56	60	167	0	200	83.5	▲4
(2)園内研究会・園内研修会の開催状況 保育者の資質向上を目指して、以下のとおり園内研究会等を開催しました。								
施設名	開催回数		平成27年度研究主題					
	研究会	研修会						
山東幼稚園	7	5	健やかな心と体を育む保育を目指して 一運動遊びを通して一					
米原幼稚園	10	4	自ら身体を動かし、生き生きと遊ぶ子を目指して ～自ら身体を動かす楽しさを味わうための保育内容と援助のあり方～					
(3)特別保育事業実施状況 特別支援保育事業 加配教諭（山東幼、米原幼） 7人								
評価の内容							評価	
計画的な園内研究会および園内研修会の開催により保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図ることができました。また、幼児の健康管理に努め、幼児の健康増進を図ることができました。							C	

事業番号		34									
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費						
事業名		継続	次代を担う青少年育成事業			主管課	こども未来部 子育て支援課				
総合計画上の 位置づけ		政策		誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち							
		基本施策		地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる							
		単位施策		子どもを支える教育環境の充実							
事業費（円）		27年度		26年度		財源内訳（円）		27年度		26年度	
予算額		2,630,000		2,630,000		国 費		0		0	
うち繰越		0		0		県 費		85,000		0	
決算額		2,252,396		2,248,711		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		0		0	
執行率（％）		85.6		85.5		一般財源		2,167,396		2,248,711	
80%以下の理由						その他の内訳（27年度）					
事業コスト				事業費		人件費（ 1.80 人役）			計		
決 算 額				2,252 千円		13,385 千円			15,637 千円		
市民1人当たり（ 39,864 人）				56 円		336 円			392 円		
事業の目的および内容											
青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。 活動助成団体：米原市青少年育成市民会議、米原市子ども会育成連合会、米原市PTA連絡協議会											
事業の実績											
(1)市青少年育成市民会議への活動助成および事務局運営（補助金：1,051,256円） 「青少年健全育成」「子どもの安全確保」「非行防止・環境浄化」「家庭教育・子育て支援」等の活動支援 ①あいさつ運動の実施：年間9回、毎回約200人参加 ②青少年育成大会開催：平成27年10月17日（土）、ルッチプラザベルホール310、241人参加 頭彰表彰、あいさつ標語表彰、中学生広場（意見発表）、講演会（市PTA連絡協議会と合同） ③巡回パトロールの実施：年間19回 ④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供											
(2)米原市子ども会育成連合会への活動助成（補助金：1,030,039円） ①創作体験事業（まいばら子ども王国）の実施 平成27年10月17日（土）、ルッチプラザ、山東公民館、483人参加 ②支部事業（4支部）および各単位子ども会（89団体）への助成 ③ジュニアリーダー養成講習会：年間9回、11人参加 ④子ども会活動実践記録「ほたる第11集」の発行 ⑤会員数：2,652人（平成26年度 2,858人）											
(3)米原市PTA連絡協議会への活動助成（補助金：171,101円） 市内のPTA会員の家庭教育力の向上および教育啓発事業等への活動助成 ①教育講演会開催：平成27年10月17日（土）、ルッチプラザベルホール310、241人参加 講師：桂 才賀（かつら さいが）氏 演題：子どもたちを叱れない大人たちへ ～心を見つめたくましく伸ばす～ ②会員数：3,628人（平成26年度 3,581人）											
評価の内容										評価	
(1)青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的を実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。										B	
(2)子ども会育成連合会では、合併10周年記念事業として「まいばら子ども王国」を開催し、市内の事業所と連携し、創作体験や職業体験活動を実施することで多くの親子に参加いただき、子どもの自主性と協調性を伸ばすとともに、地域の子どもの力を高めました。											
(3)PTA連絡協議会では、教育講演会を実施し、家庭教育力の向上を図ることができました。											

事業番号		35	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
		目	2 青少年育成費
事業名	継続	少年センター事業	
		主管課	こども未来部 こども家庭課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち	
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる	
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実	
事業費（円）	27年度	26年度	財源内訳（円）
予算額	3,570,000	3,544,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	3,220,151	3,188,808	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率（％）	90.2	90.0	一般財源
80%以下の理由			その他の内訳（27年度）
事業コスト		事業費	人件費（ 3.00 人 役 ）
決 算 額		3,220 千円	22,308 千円
市民1人当たり（ 39,864 人 ）		81 円	560 円
事業の目的および内容			
(1) 青少年の非行防止・犯罪の未然防止のために少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動・有害環境浄化活動等を実施しました。 (2) 不登校・非行、無職少年やニート・引きこもりの青少年および家族からの相談を受け自立へ向けた支援を実施しました。			
事業の実績			
(1) 街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声掛け活動を定期的に実施（延べ198回実施） (2) 環境浄化活動として、有害図書等立入り調査・白ポスト・有害図書回収活動の実施（月2回定期回収、回収総数1,491点） (3) 少年およびその家族等からの不登校・いじめ・問題行動等に関わる相談実施（526件） (4) 「少年の主張作文集」発行…作品募集および文集作成・発行…年1回 「少年センターだより」の発行…年3回 (5) 薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止セミナーおよび薬物乱用防止教室実施…9回 (6) 無職少年対策指導員や少年補導委員の研修実施…8回 (7) 小中学校や警察署、保護司会等との情報交換 ※中学校・高等学校等の訪問32回 (8) 職員および少年補導委員による補導活動 ※街頭指導活動（198回）啓発活動等 (9) 相談活動（延べ526件） ※不登校・非行・交遊関係・いじめ・学業 ※就労相談については若者自立ルーム「あおぞら」との連携 [主な経費] 少年補導職員賃金（1人） 1,628,651円 補導委員報償費（37人） 555,000円 印刷製本費 184,032円			
評価の内容			評価
市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。 また、他機関と連携して問題行動等の相談に継続的な支援を行い、解決につながったケースもありました。			C

平成 27 年度

幼稚園学校評議員・園運営委員による学校・園評価

【保育園・幼稚園・認定こども園集計結果】

「平成 27 年度米原市学校教育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を各保育園・幼稚園・認定こども園共通項目とします。園における自己評価の結果や園長の説明、保育や行事の参観等を基に、評価と御意見をお書きください。

評価の方法は、それぞれの項目の評価の欄に次の記号で評価を記入していただき、御意見をお書きください。

4 : よくできている 3 : できている 2 : あまりできていない 1 : できていない

1 園経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・評価

3.6

視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。

- ・開園 1 年目として、行政・園関係者・保護者・地域の鋭い目が注がれていた。園関係者全部が園経営管理全体計画に近づくべく、様々な分野で努力されていたことが伺える。園全体の職員の動きが素晴らしく、新しい認定こども園の魂が入った。しかし、子どもたちの実態・ニーズに合っているかどうかは、1 年経過した後の評価で決まると思われる。2 年目に向けての構想を練ってもらいたい。
- ・クラスごとに、年齢にあった取組ができていると思う。
- ・子どもたちの興味、関心にあった取組、自然中で十分身体を動かすこと等、多種多様な内容を取り入れて園の経営方針を立て、運営されています。特に子どもたちが自信を持っていきいきと活動している姿は素晴らしい。

視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域にわかりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。

- ・保護者には毎月の園だよりを通じて園の方針に沿った保育行事・実践が詳しく知らされていて良いと思います。しかし、地域に開かれた園づくりのためにも、より多くの地域の方々が、この園だよりを見てくださるようにならざる工夫をお願いします。
- ・園だよりの発行で、地域の方々が園を身近に感じ、自由参観日にも回を重ねることで参加人数が増えると思う。新しい取組を積極的に行われていてとても良いと思う。
- ・園舎の老朽が進んでいる中で、子どもたちに「より良い保育を」と園長を先頭に先生方全員で取組んでおられ、しっかりと地域に密着したかわりをもった中で、園の運営が行われています。
- ・園の保育目標をしっかりと押さえ、保護者が安心できる保育に努められています。
- ・もう少し連携をしっかりともらえると、先生と保護者のコミュニケーションが取りやすくなると思う。まだ、園での様子などを教えてくれる先生が少ない気がする。

- ・園の取組、教育方針、保育目標、一人ひとりの子どもの成長と保育のねらいなど、立派な取組が保護者の方に伝わっていないように思う。保護者の話を聞くことも大切であるが、園の方針を十分に伝え、理解していただけるようにわかりやすく、伝えると良い。
- ・子どもの迎えの時、各クラスのボードに一日の様子や何をしたかを書いてあり、とてもうれしい。また、何か変わったことがあれば必ず口頭で伝えてもらえる。直接話ができない時は、電話をしてもらい、親身になってもらっている。

視点③ 園長のリーダーシップのもと、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

- ・園長のリーダーシップのもとに、職員が一丸となって目指す保育に明るく取り組んでいると感じる。
- ・先生方が様々な思いを大事にしながら、子ども一人ひとりの保育に当たっていることがうかがえました。
- ・保育園と幼稚園が統合された大きな組織になって、今までのようなきめ細かな対応は難しいと思うが、職員間の連絡を密にして、意思統一を図ることが重要である。
- ・大規模園、また、1年目ということで、大変であったと思うが、園長先生を初めとして、全職員が子どものため、保護者のためを考え、丁寧に細かく計画・立案・実行されたと思う。1年過ぎると、また、違った問題点が出てきたり、子どもの日々の成長により、当初と変わってくることもあると思うので、その都度、ある程度変更していく柔軟性があると良いと思う。
- ・担任の先生方は、子どもの年齢や育ちにに応じて、日々の教育活動を実践している。さらに、園内研究に取り組むことにより、全職員の同一步調の協力と支援により、とても成果をあげていると考える。
- ・加配連絡会での情報交換において、先生たちの地域や保護者・子どもたちへの取組を聞き、職員間で情報を共有し対応しているのを感じとれる。
- ・経験豊かな職員はその経験を生かした取組、若手の職員は意欲的な取組で、園長を中心にそれらがうまく生かされて動いている感じを受ける。それが、日々の取組の中で次の成果を生み出して好循環で回っている。しかし、うまくまわっている時ほど、結果オーライの取組にならないように、結果（成果）をきちんと精査して、次の取組を進めて行ってもらいたい。

視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、きめ細かな支援の充実を図っている。

- ・特別支援保育が園全体で行われていて、きめ細かな支援ができています。
- ・特別支援担当職員の勤務体制が、日替わりだったりフルタイムでなかったりして、きめ細かな指導連携に不安を与えるため、職員体制の見直しが必要でないか。

視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。

- ・地域の教育力を生かした取組の推進とあるが、具体的な活動、展開がはっきり見えてこない。
- ・今年度、保育応援隊が組織できたことは大変良かった。保護者や地域との連携がより深まるよう取組に期待する。
- ・保護者や地域との連携が非常に良く取組まれて、積極的に推進しておられる。
- ・まだまだ課題のある家庭や子どもがたくさんいる。保護者が先生に教えてもらい気づき生活改善できる。また、逆に先生も保護者や子どもによって気づかされている。双方の信頼関係

ができていて、子どもたちにとってとても良い環境となっている。関係機関も、これからも連携し協力していきたい。

- ・保育士の負担をもう少し軽減できるといいと思う

視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。

- ・前向きで積極的に取り組んでいる。
- ・文化祭、夏祭り、ふれあい農園など地域の方々、小学校、中学校のみなさんとの触れ合える行事がたくさんあり、交流が深まっている。
- ・一人ひとりの子どもに目を配る指導や保護者との意思疎通の面で、課題が見受けられる。

視点⑦ 全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。

- ・保護者からの意見を大切、丁寧に今後も取り合ってもらいたい。
- ・子育て支援センターの活動は、子どもやお母さん同士がつながれる場として大変よいことで、楽しく過ごされております。このことは職員の皆さんの熱心さがうかがえます。
- ・普段から、先生方の心のこもった声掛けがあり、温かい雰囲気の中で生活できていると感じる。担任の先生だけでなく、園全体の先生方で子どもたちを見守ってもらっていると思う。

2 基本的な生活習慣の形成・・・・・・・・・・・・・評価

3.5

視点① あいさつをはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・挨拶や日常生活習慣が身に付くよう、一人ひとりと向き合ってしっかり指導している。
- ・園児たちは訪問するたびに元気な声であいさつをしてくれます。しっかりと生活習慣の第一歩ができています。
- ・先生方の毎日のあいさつやあいさつ運動で、子どもたちもあいさつできるようになった。自然的にできるようになるには、親のしつけも必要
- ・基本的な生活習慣の育成は、大変重要なことです。園だけで身につけさせていくことは難しいことです。家庭と十分に連携しながらこの基本的な生活習慣の確立に向けて一層の取組を望みます。
- ・成長に応じて生活習慣が身につくように努めておられることは良く理解する。一方、家族が少人数化する中で、地域のつながりの薄れとも相まって、子どもが育つ環境は厳しくなっていると感じる。
- ・あいさつの仕方、手洗い、歯ブラシ等、園生活の中での生活習慣の指導の工夫が見られます。
- ・子どもの成長にとって、自分でさせることは非常に良いと思います。また、それを放置するのではなく、見守ることが大切だと改めて感じました。
- ・基本的な生活習慣・食習慣はとても大切なことであるが、子どもの貧困問題、保護者の育ち、価値観の違いなどにより、家庭に望むことが難しい家もある。園・先生方が模範となり、その年齢に必要な生活習慣がしっかり身に付くようにしてもらえればと思う。それとともに、なぜ必要なのか、どうすればよいのか、困ったときの対応の仕方など、保護者の方が安心して子育てができるように教えてあげてほしい。
- ・先生方はもちろん、保護者の方にも挨拶は問われることである。交通安全パトロールをしている私に、会釈をしてくれる先生や保護者もおられるが、そうでない方もいる。先生方は、

マナー、モラル、人格まで厳しい目で保護者から見られている。仕事に誇りをもって、挨拶したり、笑顔で取り組んだりしてほしい。

- ・耳から入った言葉をそのまま覚えるため、的確な発声や言い回しが家庭や園でも必要である。差別やいじめにつながるような言葉の類は、特に注意が必要だと孫を見ていて感じる。
- ・先生方の「〇〇ちゃん、〇〇くん、おはよう」という名前を付けて挨拶してくださるのはとても温かく感じる。
- ・せいかつノートを作ってもらい、早寝・早起き・食事・体調など家庭でも心がけやすい。
- ・園と保護者との情報交換が毎日のように行われ、子どもへの適切な指導（ほめ言葉）など、双方で習慣の形成ができていると感じる。
- ・各家庭でなかなか身に着けられない生活習慣ですが、園で友だちや先生とともに、人の中で身につけられていくことも多く、できるようになったことを家でも報告してくる様子を見ると頼もしく思います。

視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解のもとに取り組んでいる。

- ・集団遊びの中で、自然に集団生活ルールの習得に向けた保育がされている。
- ・保護者との連携をしっかりと行っていると感じる。そこで、組織力や保育力のさらなる向上に向けた支援が必要だと感じる。
- ・視点が弱いように思います。
- ・小中学校の実態から見てくることの一つに、基本的な生活習慣がある。授業が成立しない、学級が学級として成立しない。そんな事態にならないためにも、乳幼児期の教育は大切で、子どもたちが、自己肯定感・自尊感情を高めるべく、指導をお願いしたい。その子が、その子らしく自信がもてるように。

視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

- ・食べ物の好き嫌いは個人差があり、家庭での食事習慣がとても影響している。保護者に対する意識改革により取り組まれ、子ども達が就学時に困らないようにしていただきたい。
- ・子どもたちの食習慣で、好き嫌いのない食事の仕方等、園全体で取組まれておられます。大変良いことです。
- ・自分たちで育てた野菜を給食にも取り入れ、園児たちの成長にも役立っていると思います。

3 豊かな感性や表現力の育成・・・・・・・・・・評価

3.6

視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・周りの自然豊かな環境を大いに活用し、のびのびと保育ができていると思います。また、各種のボランティアサークルに保護者が参加し、音楽や言語など身近に機会も大きく、子どもたちの表現力にもよい影響があると思います。
- ・米原のもつ自然や文化、よさを体験できる機会を多くもつことは、大変意義のあることだと思います。このように地域の自然や地域の人材を生かした取組の活動をもっともっと展開していただきたい。
- ・園庭や園外での自然に関わる行事に触れることで心にゆとりが生まれ、感性豊かな子どもが育っていくと思う。これからも、この自然に恵まれた場所を生かして活動していただきたい。
- ・全身（五感）を働かせた活動は大切である。
- ・リズム遊び、劇遊び、手話など年齢に応じたいろいろな遊びを通して、表現することが身につけていると思う。
- ・歌、踊り、手話等集団でも取り組むことができている。子どもも一生懸命やっている。

視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心がけている。

- ・一人ひとり子どもの思いをじっくり聞く保育を実践している。
- ・子ども達が話したり聞いたりする時に、子どもの目線に立ち、話をしたり聞いたりしておられ、きめ細かな対応ができていると思います。
- ・一人外れている子が少ない。なんらかで先生がかかわっている様子を見ることができた。
- ・子どもは先生が大好きです。やさしく笑顔で接してくださることがうかがえます。発表会は、子どもたちへのアプローチは、見守り声掛けしてくださる姿がとても印象的でした。

視点③ 一人ひとりの子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。

- ・子ども一人一人個人差があり、職員の資質の向上と保護者の連携により充実した幼稚園生活を送れるよう願っている。
- ・広い園舎や園の構成を上手く利用して、年齢別にゆっくり遊ぶなど異年齢の行動が見えるように配慮されていて、感心して見させてもらっている。また、家では経験できない活動を積極的に取り入れておられ、子どもたちにとってもよい情操教育になっている。これからも、全身を使った活動(泥んこ、山登り、やまんばなど) や行事活動などを取り入れていただければと思う。
- ・子どもの感性は、個々様々である。先生方も冒険・探索し、子どもたちにどのような自然を見せていくか想像力を働かせてほしい。先生もともに楽しめると良い。複数クラスあるので、先生の力量の差が出ないようにすることも大切である。
- ・イベントを楽しみに行う創作活動など時間をかけて指導されていて、子どもたちの心に残る表現活動になったと思う。
- ・一人一人の良いところをひきだしている。

4 健やかな体と豊かな心の育成・・・・・・・・・・評価

3.6

視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・今年度は特に、積極的に運動遊びを取り入れていて、心身ともに大きな発達・発展があったのではないのでしょうか。
- ・毎朝のマラソンや体操はとても良いことだと思う。一人ではできない事も友達と一緒に頑張ることができる。続けることで体も心も健やかに育ってもらいたい。
- ・5歳児のサッカー教室が3回もあり、運動の好きな子どもは喜んでいてと思います。
- ・手作りの遊具など工夫を凝らしたものがあって温かみを感じる。
- ・一人ひとりの子どもがいろいろな機会に、楽しく前向きで主体的に取り組んでいる姿を目にした。
- ・ゆとりある空間を用意して園児たちの活動の機会をつくってもらっていることに感謝している。
- ・安全面にリスクを伴うが、こども園の園舎周辺や旧息郷小学校グラウンドや校舎周辺を活用した活動ができるとよい。

視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・良い絵本を見ることは、子どもの成長に欠かせないもので、絵本の貸し出しやお話サークルさんの読み聞かせをはじめ、絵本との出会いを多くし、絵本との親しみを大切にする保育、もっと充実させてください。
- ・全て幼稚園だけでできることではない。家庭、地域等がサポートできる体制を築けるか。
- ・絵本や紙芝居等、感情を豊かにする情操教育の充実が望ましい。家庭でも読み聞かせの機会

を増やすように、保護者への啓発が必要だと思う。

- ・様々な生き物とふれあえているおかげで、動物にすごく興味をもつようになり、命の大切さをずいぶんわかるようになった。

視点③ 自然環境にかかわり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さやいのちの大切さに気づく取組をしている。

- ・自然と触れ合う体験活動や日常の動植物の触れ合いを通じて、いのちに向き合った保育の実践を行っている。この取組を大切にして、今後も続けてください。
- ・自然観察などで興味関心が広がるような取組も良かった。それらを通じてより深く命を考える子どもに育つことを期待する。
- ・干し柿作りに参加させていただきましたが、核家族化の進む中、孫世代と交流できることが伝統や文化を伝えるきっかけになり、よい取組だと感じました。
- ・園内での体験活動の教育効果と園外での体験活動の教育効果には、大きな差があるように思う。園外に出ると安全・安心面への配慮など、他の要因が含まれ、なかなか実践できないが、例えば、民生委員児童委員さんなどに相談して、外部の人に応援してもらい、園外の体験活動の充実を図ると良い。
- ・園の周囲には自然がたくさんある。まずは、先生方が地域の中に出て自然を探し、体験した上で、子どもたちを思いっきり遊ばせてほしい。動植物も子どもたちが自然の中で自分で見つけ、関わり、飼育栽培していこうという気持ちになる。それこそ、自然の不思議さや本当の命の大切さが、少しでもわかると思う。地域の方の協力を得ながら、園の畑や田んぼにも挑戦してほしい。
- ・年齢に応じた野菜の栽培をし、その野菜でのクッキング活動は「食」への関心が深まっている。
- ・周りの豊かな自然環境や近くの老人福祉施設を生かした体験学習が行われている。

視点④ 身近な大人や友だちと一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。

- ・焼き芋パーティで焼き芋作りから焼きたて芋を皆と一緒に食べて、焼き芋の美味しさも味わってもらえ、有意義な行事で今後も継続して取り組んでいただきたい。
- ・保護者と子どもと一緒に調理したり食べたりする食の体験活動に取り組んでおられることは、食べる楽しさを感じたり、作ってくれる人に感謝の気持ちができるようになると思う。
- ・園でのクッキング活動により、家庭でも台所に進んで立ち、料理に対する興味を持つようになった。
- ・友だちと先生と保護者と一緒に食べたり、クッキングしたりと興味を持って取り組んでいると感じた。

5 人と変わる力の育成・・・・・・・・・・・・・評価

3.7

視点① 一人ひとりの子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係づくりに努めている。

- ・先生方は、子どもたち一人ひとりの行動を観察し、子どものお迎えの際など、子どもに一日の園での生活や様子について保護者と十分にお話しされ、信頼づくりに力を入れておられる様子が見受けられます。
- ・子どもに寄り添いながら、子どものやる気を引き出しながら友達を気遣うことができる保育を実践しておられると嬉しく思った。先生や親に対して安心な関係を感じて、いつもにこにこしている子どもが多いと感じる。
- ・一人一人の個性を理解し大切にしながら子ども達とじっくり関わり、「聞く」「待つ」「認める」

など心がけて取り組んでいる。

- ・放課後園庭を開放されて園児達それぞれが遊びの中を通じて色々なことを学ぶ機会が持て、また、保護者間の情報交換等交流深めにもなり、続けていけると良い。
- ・多くの子どもたちと職員なので、一人ひとりを見ているつもりでも目が離れていることもあると思う。人と関わる力をつけるためには、まず、子どもが安定した気持ちでいることが大切なので、職員間の「報・連・相」をしっかりとしてほしい。
- ・発表会で子どもたち一人一人が自信を持って表現している姿に感動しました。少々の失敗にもめげず何度もチャレンジする姿、できたことを喜ぶ姿、自分の得意なことを自信を持ってしている姿など、輝いて見えました。また、その姿を見ている先生、子どもたち、保護者の皆さんのまなざしがあたたかかったです。

視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。

- ・子どもたちの集団を何もせず放っておくと、気おくれしたりする子も出てくると思いますが、この園では、きちんと先生方がフォローをしたり、背中を押してあげたりすることで、一人ひとりが伸び伸び活動できていると思います。
- ・乳児では生活と遊びの場を上手く分けたり、幼児でも室内を工夫して仕切ったりするなど、広いとは言えない保育室内環境を上手く使用していて、見るとほっとでき、子どもたちは楽しいだろうと思う。
- ・異年齢の交流、小学校、中学校、高校との交流を通して、人と関わる楽しさや喜びを感じられていると思う。
- ・先生方が、子ども一人ひとりの心・身体の状態を把握してくださり日々、安心・安定した気持ちで過ごせる環境になっている。

視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友だちのよさや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・子どもたちの集団活動を見守りながら、子どもたちが工夫を引き出し人と関わる楽しさを感じていく指導に努めている。
- ・先生方のチームワークの良さは子ども達のとても良いお手本になっていると感じる。
- ・保育者と子どもと一緒に遊ぶことが楽しいと思えるように保育をされておられますので、友だちが互いに認め合うことが出来ていると思います。
- ・米原市の子どもは、もっと人と関わる力をつけてほしいと願うので、御指導よろしくお願いします。
- ・友だちに対して、遊びの中でお互いを知り認め、温かい人間関係ができていくといいなと感じる。支援児の指導も大変だと思うが、将来いじめの対象にならない、また、しない気持ちを育んでほしい。
- ・グループ活動をする機会がたくさんあるので、友だちと力を合わせるなど協調性が身につけてきていると思う。

平成 27 年度
小・中 学 校 学 校 評 議 員 に よ る 学 校 評 価
【小学校・中学校集計結果】

「平成 27 年度米原市学校教育の指針」の取組み内容に関わる評価のため、以下の項目を各小・中学校共通項目とします。学校における自己評価の結果や学校長の説明、授業や行事の参観等を基に、評価と御意見をお書きください。

評価の方法は、それぞれの項目の評価の欄に次の記号で評価を記入していただき、御意見をお書きください。

4 : よくできている 3 : できている 2 : あまりできていない 1 : できていない

1 学校経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評 価

小学校	3.47
中学校	3.64

視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

〔小学校〕

- ・教育目標の「合い言葉」が小学生にもわかりやすい言葉に刷新され、教室や廊下など児童の目に付きやすい場所に掲示されているので、児童の年齢に応じてその心に浸透しているものと思われます。
- ・教育目標、目標達成のための具体策いずれも明確であり、そのフォローもきっちりとされている。
- ・ブレのない目標を目指しての行動指針は重要です。ただ、目指す学校像が少し実態と異なっているのではないかと、または地域が求める子ども達が何かを、全年齢にわたり、ヒアリングが必要ではないかと感じます。

〔中学校〕

- ・具現化された学校教育目標は、とてもわかりやすく、明瞭でインパクトがあり、生徒アンケート結果でも、生徒自らが努力しており素晴らしい。また、中学生だけでなく大人も含め、広く人としての成長を目指した目標であり、継続した取組としていただきたい。
- ・素晴らしい目標と考える。真摯に取り組んでほしい。

視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校便り等により保護者や地域にわかりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・学校行事をマスコミに公開されているのも、地域に開かれた学校づくりには効果的であると思います。
- ・課題解決さらに学校全体の向上のために相互に支え合い刺激し合いながら取り組んでおられる様子が伝わります。職員室が和やかであることが地域に信頼される学校づくりや教育目標達成のための取組、また「思いやりのある子」の育成等いろいろなことに良い影響を及ぼしていると思います。

- ・ホームページの更新・活用をお願いします。
- ・学校の様子は学校便りにより概ね把握できるので、情報発信については満足である。欲を言えば、各学年の便りも同封してもらえともっとわかりやすいと思った。

〔中学校〕

- ・孫二人が本校にお世話になっております。毎日いやがらず通学してくれており一日一日楽しく学校生活を送ってくれていると思います。学校だよりにおいても教育方針等わかりやすく情報の提供をして頂いていると思います。
- ・学校だよりでは、毎月、学校長の思いや生徒たちの活躍する様子などをわかりやすくまとめて新聞に折り込んだり、地域での回覧を依頼するなど、地域に開かれ信頼される学校作りのために努力している姿勢がよくわかります。

視点③ 校長のリーダーシップのもと教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・授業の「めあて」表示は、学習の方向性をわかりやすく示すもので、よい取組だと思えます。
- ・学校全体で共有した課題の実践や経過を共通理解できるようにするには、課題に取り組むための連携や、様々な課題に的確に対応できる体制づくりの構築が求められると思います。
- ・職員による学校評価は、教育目標を達成する上で非常に重要であると考えます。教育活動全般について具体的に評価が行われており、校長のリーダーシップの下教職員一丸となって取り組まれていると思います。

〔中学校〕

- ・毎日朝練習に登校してくる生徒を、校長が校門で迎える姿は、必ず生徒に伝わる。
- ・何度か学校を訪問させていただいていますが、学校も落ち着いていて本当に良いです。生徒たちにとっても話しやすい良い先生方に恵まれ、幸せだと毎回感じています。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

・・・・・・・・ 評価

小学校	3.28
中学校	3.50

視点① 学校は、あいさつ運動の推進や道徳教育の推進、いのち・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・友だちのいいところを見つける活動はすばらしいと思う。一人ひとりに関心を持ち認め合うことがいじめを防止することにつながると思う。
- ・いじめは、今はなくてもいつ起こるか分からない。表に出ていない場合もあるので、未然防止、早期発見が大切。もし、気がかりなことが起きたら、早期解決につなげていくために、学校だけで悩まず、多くの方に情報発信していただき、地域ぐるみで問題解決していくことが大切だと思う。
- ・保護者ができていないことを子どもに期待するのは無理があるのではないのでしょうか。

〔中学校〕

- ・あいさつはなかなか自主的にされる子どもはおられませんが、あいさつをすると必ず返し

てくれます（声は出さなくても頭を下げたり）。

- ・ いじめのない学校づくりでは、学校・家庭・地域のネットワークの一層の強化が必要と考える。
- ・ ささいなことにも注意を払う先生方の感度を高めてほしい。

視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身につけ、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。

※社会性

- ・ 集団をつくり他人とかかわって生活しようとする、人間の本能的性質

規範意識

- ・ ルールや決まりを守る意識

自己指導力

- ・ 児童生徒が自己実現に向けて自らの目標を明確にし、その目標の達成に向けて自らを主体的に方向付けていくために求められる力

〔小学校〕

- ・ キャリア教育の推進は、小学生では少し難しいように思う。みんなのために、公共心などを中心に進めていくことが大切ではないか。
- ・ 自立した人間として生きていくための力をつけていくことは、本当に大事なことだと思います。いろんな角度からご指導をお願いします。

〔中学校〕

- ・ 学校だけで子どもたちを心身ともに豊かにすることはできません。「職場体験」は学校や家庭で体験できない将来を見据えた活動です。さらなる地域社会との連携が強まればと願います。
- ・ 2年生では職場体験学習がありますが、この機会を通じて将来の就職・勤労に対しての目標や希望に目覚める生徒も多数いると思います。終了後の意見交換は、様々な事業所の様子や感想を共有できるため、職場体験を有意義な社会学習の機会としていただきたいと思います。

視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・ 昨年まで実施されていたマラソンが無くなったのは残念ですが、子どもたちには学力もさることながら、心身ともにたくましい力をつけることが必要ではないかと思います。親子伊吹山登山は、体力と同時に忍耐力も養う素晴らしい取組であると思う。引き続き取り組んでいただきたい。
- ・ 10トレの取組がテレビや新聞で紹介される機会が多く、いきいきと取り組む子どもの表情が印象的です。人と比べるのではなく、自分の記録との取組なので、このことはスポーツ面だけでなく、学習面や多くの場面で他人とのたたかいでなく、自分とのたたかい（自己向上心）につながると思います。
- ・ 中休みや昼休みなど校庭から聞こえてくる子どもたちの元気な声や遊ぶ姿が逞しく感じられる。子どもは群れ遊びから多くのことを学び成長します。地域や家庭で欠如している遊びをこれからも学校で補ってください（たっぷり遊ばせて）。

〔中学校〕

- ・部活動において優秀な成績を上げるなど、今後の活躍に希望を抱いている。
- ・生徒数減に伴う団体競技部活の運営（合同チーム等）に苦慮されているが、競技会等のよい結果（軟式野球部、駅伝など）も含め、生徒の人間形成にも大変努力していると感じる。小規模を生かした部活動のより一層の充実を望む。

3 個性を生かしつつ一人ひとりに確かな学力を育む教育の充実

・・・・・・・・ 評 価

小学校	3.41
中学校	3.50

視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、基礎基本の定着と確かな学力を育む教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・朝の授業前の時間を利用して学力の向上につながる取組がされていたり、日記や詩の暗唱、グループでの話し合い、発表等、それぞれの先生が様々な工夫をされていると思う。
- ・授業参観で、子どもたちがよく考えて生き生きと活動している様子を拝見し、感心した。個性を重んじて、一人ひとりの発言を教師が大事に扱っておられることも、子どもの主体的な参加型授業になっている要因だと思う。どの子も、楽しそうに学習していた。
- ・前年の授業参観と比べて今年は児童の屈託のない態度は先生の学習指導に対する努力の成果でしょう。このことにより学力向上への効果が期待できる。

〔中学校〕

- ・全国学力調査における米原市の評価は平均以下と認識していますが、私は余り問題にしていません。（上位にあるにこしたことはないが）むしろ、生徒一人ひとりの能力を生かした教育が大切だと思います。
- ・読書や家庭学習の充実を目指した指導、定期テストの前や長期休業中の個別指導など、生徒の学力向上のため学校全体で取組を推し進めていただいていることを有り難く思っています。

視点② 学校は、少人数指導等きめ細かな学習指導の工夫改善に、学校全体で取り組んでいる。

※少人数指導等

- ・本来1学級あたりの定数は40人（一部の学年は35人）であるが、全体をいくつかのグループに分けて、それぞれのグループに教師がつき指導する。または、1学級に数人の教師が入り指導する。

〔小学校〕

- ・小学校は基礎基本を中心に、学ぶことの楽しさを身につけると同時にちょっとしたつまずき等が原因で、勉強への意欲や自信をなくす時期でもあると思う。引き続き少人数指導の利点を生かして、一人ひとりの理解度に応じたきめ細かい指導をお願いする。
- ・情報機器（タブレット、パソコン、ディスプレイ）を駆使した成果発表の授業参観をさせていただいたが、聞いている方に非常にわかりやすく、有効だと思った。発表だけでなく、発表を聞いている児童の意見も聞く機会があってもよかったのではないかな。

〔中学校〕

- ・少人数指導できめ細かに指導が受けられて生徒は幸せだと思います。
- ・先生が分かりやすい授業にしてくれている。生徒も意欲的に取り組んでいる。生徒数が多いだけに絶えずきめ細かく学校として工夫してほしい。

視点③ 学校は、読書活動の推進や児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、言語活動の充実を図る取組を行なっている。

〔小学校〕

- ・詩の暗唱や朗読に全校で取り組まれているのは、意義あることだと思います。
- ・図書室の改造により読書環境も新たに整い、学校や家庭での読書の習慣化につなげていただきたい。
- ・7学校の図書館が整備され、図書に親しむ環境作りができたので、みんなが読書を楽しむようにボランティアの方の協力を得て工夫してほしい。

〔中学校〕

- ・図書館教育の数値がやや低い。本との付き合いは一生、今、習慣づけることが大切と感じる。
- ・現在、読書タイムが設けられておられます。引き継いでして下さい。本を読むことで創造豊かな人間になると思います。

視点④ 学校は、体験的な学習や問題解決的な学習を重視した教育の推進に取り組んでいる。

※問題解決的な学習

- ・学習指導の方法の一つ。児童生徒が当面している問題の解決への努力を通して、経験や知識を再構成し、発展させて子どもの自主的、創造的、批判的な施行能力を高めようとする学習形態。

〔小学校〕

- ・問題解決的な学習については、先生方が指導に対する迷いや不安を感じておられるようです。学校としての進め方や内容等の学習形態を明確にした上で取り組んでいただきたいと思います。
- ・子どもたちは人や自然、地域とのかかわりの体験学習を通して、新たな発見や感動、ぬくもりを経験するなど、授業では得られない教育効果があり、引き続き取組を願いたい。

〔中学校〕

- ・地域の特性を生かした各種行事に参加させるなど体験学習活動に取り組み、問題解決能力の醸成に努めている。
- ・生徒が自分自身の課題に気づき、継続してその解決に取り組むような場の設定の工夫をしてほしい。

視点⑤ 学校は、保幼小中の校種間の滑らかな接続を図るための様々な連携を積極的に進めている。

〔小学校〕

- ・校種間の接続の評価が低い。保護者は、幼稚園、保育園、認定こども園について、その保育の在り方に疑問を抱いている。小学校へ入学してきた時どう差異があるのか、中学校に入った時山東小はどうか、課題を連携して話し合ってもらいたいと思う。

- ・校種間、関係機関との連携を図り、子どもたちが学校生活になじめるよう、継続した取組を願う。
- ・園・小学校・中学校の教職員の交流が以前より頻繁に行なわれ、連携がスムーズに行なわれていると思います。

〔中学校〕

- ・小学校高学年と中学生の積極的な連携活動にも取り組んでいる。
- ・11月に開催された校区教育フォーラムには、教師をはじめ学校関係者や地域の方々が参加され、有意義な機会であったと思います。ただし、もう少し保護者の方々の参加があればと感じました。

4 教育的にニーズに応じた特別支援教育の推進・・・・・・・・・・ 評価

小学校	3.34
中学校	3.35

視点① 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組んでいる。

※特別支援教育

- ・LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症等を含めた障がいのある児童生徒の一人一人の教育的ニーズに応じた支援を校内外の関係機関、関係者のチームワークとネットワークによって実現する新しい教育
- ・LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。
- ・ADHDは、次の3つを中心的な症状とする発達障害
 - 不注意（物事に集中することができず、忘れ物が多い）
 - 多動性（落ち着きがなく、じっとしていることができない）
 - 衝動性（思いついた行動を唐突に行う、順番を待てない）
- ・高機能自閉症は、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がいである自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

コーディネーター

- ・児童生徒への適切な支援のために、関係機関、関係者間を連絡、調整し、協同的に対応できるようにするための役割として指名されている。

〔小学校〕

- ・様々な形での支援が必要な子どもが多い中、校内では共通理解を図り、また、関係機関とも連携しながら特別支援教育に取り組んでおられる姿に敬意を表します。
- ・専門家や関係機関との連携により、適切に対応してほしい。

〔中学校〕

- ・小中連携、関係機関との連携で、一人ひとりに合った教育が行われている様子を伺っています。
- ・特別な支援を要する生徒の増加に伴い、教師一人ひとりの見取りの力が重要となる。当該生徒とのつながりを大切にしつつ、記録等の事実を積み重ね、個のニーズに応じた指導ができる力量を身につけることが大切である。

視点② 学校は、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々

の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

〔小学校〕

- ・要支援児童も学校行事の中に溶け込んでおり、それなりに自由な行動が許容されている点は好感が持てます。担当教諭の努力も評価します。
- ・特別支援学級の教室を参観すると各々の学級に応じた机の配置、掲示物、備品、板書等があり、児童に必要な特別な支援が行われていて、その中で個性を生かし、能力が引き出されていると感じました。児童の交流だけでなく、先生方が日々情報交換、共通理解され、教育されていることも伝わります。
- ・近年特に LD、ADHD、高機能自閉症によって日頃の生活や学習上の困難を克服するため適切な個別の教育支援が行われており、よりきめ細かな指導によって、技能の習得が確実に行われており、障がい者への教育効果は確実に向上していると感じ高く評価いたします。

〔中学校〕

- ・特別支援学級の授業を参観すると、いつも生徒たちが楽しそうな表情で活動しており、先生方の指導や教育的支援の充実度が伺えました。
- ・近年やっと取組が進んできた、指導が難しい分野だと思う。データに割り当てて指導するのではなく、当人に寄り添った指導を切に願う。
- ・特別支援を要する生徒が、将来社会において自力で活動できる力の育成に、より一層努めてほしい。

5 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造・・・ 評 価

小学校	3.53
中学校	3.48

視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・地域ボランティアを募って協力してもらうことは、子どもの社会性を培うことにもなり、地域みんなで子どもたちを育てるという連帯意識がもてて、素晴らしい。
- ・学校からの通信や配布物、また新聞等から地域の特性や人材を生かした学習を展開されていることを伝えてもらっています。地域を大切にする子はきっと自分を大切に、しっかりと生活していけると思います。今後ももっともっと地域の魅力を取り入れた学習活動を続けてください。
- ・出前講座や学習ボランティアの方がいろいろな場面で関わってもらえていることはうれしいことです。どんどん担任の先生も地域の方へアプローチしてください。

〔中学校〕

- ・文化祭では地域の方が協力者として子どもたちに多くの体験する活動があり良かったと思う。
- ・中学校においては、どの学校においても学校後援会や PTA 組織などの連携は定着しているものの、地域の文化や人材を活用するための組織的な手立てが十分に確立していないのが現状だと思います。地域の力を学校教育の場で活用するためには、地域コーディネーターを軸にした一層の工夫が必要だと思います。

視点② 学校は、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりに取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・地域の自然歴史文化、そして人を生かした教育活動が素晴らしいと思います。この中で子どもたちがいろいろな形で「本物」を感じ取ってくれればと思います。
- ・伝統ある行事は、どうしてもマンネリ化してしまいがちだが、変えない内容と工夫できる内容と分けて考えると、少し進んでいくのではないかな。

〔中学校〕

- ・アンケートでは、市や地域行事への参加意識が低いように感じられる。これは子どもたちが参加する地域行事が減少傾向にあることも理由にあると思いますが、郷土愛を育てるためにも、地域の歴史や文化・行事を知ることが大切です。地域の方を講師に迎えて学ぶことも必要かと思います。
- ・地域住民と生徒とのふれ合う機会づくりを積極的に働きかけてほしい。

視点③ 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。

〔小学校〕

- ・子どもたちの安全面に関して、スクールガードの皆様には毎日子どもたちの見守りをしていただき感謝しています。
- ・登下校時のスクールガードの支援や保護者を含めた防災訓練の実施など、安心安全な学校運営に努力されている。

〔中学校〕

- ・学校が災害時の避難場所となる。生徒は地域の大きな力となることから、その役割を理解するためにも地域との連携を強める。
- ・学校と家庭の役割を保護者に理解してもらう。朝食の摂り方、家庭での学習、親子の話し合い、携帯電話の使用等。

視点④ 学校の諸活動を応援する組織（応援団）づくりに向けて、地域に積極的に働きかけている。

〔小学校〕

- ・地域連携推進会も活用され、いろいろな機会地域の人たちとの交流もされていると思います。今後もより一層機会を増やして頂きたいと思います。また、応援団作りは、大きな協力が得られるのは各団体の存在だと思います。いじめの問題、通学路の安全など、できれば各地域に出かけて行って地区懇談会を行っていただきたいと思います。
- ・5年生の稲作の活動や、親子ふれあいウォーキングなど、地域とのふれあいを大切にした取組に尽力されている様子である。これから職員が変わっても、続けて行かれることを願っている。

〔中学校〕

- ・地域を知り、地域とともに成長できるためには、各自治会長との連携が大切と考える。
- ・学校評議員として、地元のイベントに参加依頼や、地元の歴史等を教えていきたいと思います（自分の生まれた地域を知らない生徒が多いと思うから）。

米原市教育振興基本計画（目標指標）

基本目標 1 子どもの健やかな成長を支える教育を進める

施 策	指 標 名	現 状 値 (平成 26 年 度)	現 状 値 (平成 27 年 度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 就学前の保育・教育の充実	保育所待機児童数	0 人	0 人	0 人
2 子どもの確かな学力の向上	研究推進指定校数	4 校	4 校	3 校
	学力状況調査における小学生の「読む能力」の正答率 ※H25 から委託業者、調査内容を変更したため数値が大幅に変化したもの	47.6%	68.7%	(73.80%) 毎年の目標値超 H25 43.8%
	学力状況調査における中学生の「読む能力」の正答率 ※H25 から委託業者、調査内容を変更したため数値が大幅に変化したもの	63.4%	63.8%	(73.00%) 毎年の目標値超 H25 47.5%
	図書巡回文庫事業対象学年数	6 学年	6 学年	5 学年
3 豊かな心と体を育む教育の推進	児童の長期（年間 30 日以上）欠席率（小学校）	0.46%	0.58%	0.50%
	生徒の長期（年間 30 日以上）欠席率（中学校）	2.16%	2.57%	2.00%
	キャリア教育実践事業協力事業所数	149 社	139 社	170 社
	学力状況調査における「困っている人の手助けをしている」の小学生の回答率 ※H25 から調査項目を次に変更 「上下関係なく誰とでも平等に接している」の小学生の回答率	72.0%	73.0%	70.0%
	人権教育リーダー養成講座受講者数	227 人	241 人	250 人
4 食育や環境教育など特色ある教育の推進	学校給食に地場産物を使用する割合（食材数ベース）	36.7%	34.4%	25.00%
	伊吹山等登山学習実施率	93.75%	80.95%	100.00%
5 特別なニーズに対応した教育の推進	障がい児通園事業 親子通園開設回数	314 回	355 回	対応の充実

基本目標 2 家庭・地域とともに子どもたちを育む

施 策	指 標 名	現 状 値 (平成 26 年 度)	現 状 値 (平成 27 年 度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 家庭の教育 力の向上	家庭児童相談対応ケース数	347 件	356 件	相談体制の強化
2 教育を支え るコミュニ ティづくり	まなびサポーター登録者数	133 人	135 人	150 人
	学力状況調査における「地域の行事 に参加している」の小学生の回答率	73.9%	85.3%	90.00%
3 青少年の健 全育成	放課後児童クラブ実施箇所数	9 か所	9 か所	10 か所
	放課後キッズ実施箇所数	4 か所	4 か所	6 か所
	少年補導委員街頭補導活動回数	1,005 回	861 回	950 回
4 地域と連携 した人材の 育成	まなびサポーター登録者数（再掲）	133 人	135 人	150 人

基本目標 3 安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくる

施 策	指 標 名	現 状 値 (平成 26 年 度)	現 状 値 (平成 27 年 度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 教職員の資 質や指導力 の向上	教育課程の工夫を目指した研究推 進校・園の校・園数	16 校・園	15 校・園	12 校・園
	教職員研修の実施回数	24 回	24 回	23 回
2 地域に開か れた学校づ くり	あいさつ運動実施率	100.00%	100.00%	100.00%
3 安全・安心 な学校施設 の整備	小学校・中学校施設の耐震化率	100.00%	100.00%	100.00%
4 適切な教育 環境の整備	「米原市保幼小中学校統合整備計 画」の推進	統合 2 校・1 園 (山東小、河南小、 かなん認定こども園)	統合 2 校・2 園 (山東小、河南小、 かなん認定こども園、おうみ認定 こども園)	計画の推進

基本目標 4 市民が学び、活動する意欲を高める

施 策	指 標 名	現 状 値 (平成 26 年 度)	現 状 値 (平成 27 年度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 生きがいづくりを支援する生涯学習の推進	文化芸術振興自主事業回数	24 回	27 回	13 回
2 学習を地域に広げる人材づくり	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	246 回	269 回	170 回
	ハートフルフォーラム（地域学習会）参加者数	1,483 人	2,563 人	3,000 人
3 図書館を活用した読書活動の推進	市民一人当たりの図書館貸出冊数	11.89 冊	11.5 冊	14.44 冊
4 生涯スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数	1,080 人	1,085 人	1,800 人
	スポーツ少年団団員数	513 人	515 人	750 人
5 生涯学習環境やスポーツ環境の整備	新グラウンド整備事業完成年度	平成 23 年度	平成 23 年度	平成 23 年度

基本目標 5 米原の自然、歴史・文化に対する意識を高め、地域文化を育む

施 策	指 標 名	現 状 値 (平成 26 年 度)	現 状 値 (平成 27 年 度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 自然環境保全の意識向上	夢高原かっぴ伊吹の参加者数	1,193 人	1,136 人	1,000 人
	いきいき健康ウォークの参加者数	290 人	153 人	500 人
2 市民の文化・芸術活動の促進	特色あるまいばらの芸術展覧会 米原市民出品数	180 人	381 人	200 点
	特色あるまいばらの芸術展覧会 市外出品数	166 点	195 点	150 点
	文化協会員数	1,405 人	1,219 人	2,200 人
3 歴史・文化の保存と継承	文化財補助事業申請件数	23 件	25 件	23 件
4 歴史・文化に親しむ機会の充実	歴史講座受講者数	55 人	51 人	100 人
	歴史イベント開催回数	8 回	11 回	2 回